

252号



あごら鹿児島編

自分を生きる 平和をつくる かごしまの女

◆ 女が「自分を生きる」ということ 相星雅子

◆ 県内の女性議員を「100人にする会」で想うこと 小川みさ子

◆ AGORAZEIN かごしまの女は「自分」を生きているか

◆ 鹿児島県・錦江湾に人工島!? ゴーサインに桜島も怒りの爆発!

◆ 主婦のわくわく井戸端会議

人工島市議会を傍聴して／悪夢のような時代だからこそ

◆ 韓国・ナヌムの家への旅——おもいきりソウル三日間 疋田京子

◆ 沖縄からサミットと基地強化のリンクに反対! ほか



自分を生きる 平和をつくる かのしまの女

女性が「自分を生きる」ということ——鹿児島的女性作家たち—— 相星雅子 1

県内の女性議員を二〇〇人にするの 男女参画セミナーで想うこと——千キロ応援の旅を終えて 小川みさ子 2

かのしまの女は「自分」を生きているか

AGORAZEIN 上ノ原歌織／横田淳子／古里なおみ／中山マサ子／大場桂子

喫茶店「さくらひらひら」店主／浜田啓子／川崎清子／斎藤千代／真木 泉 8

鹿児島県・錦江湾に人工島!? ゴーサインに桜島も怒りの爆発! 共生ネットワーク TekuTeku 21

〔環境編〕 人工島市議会を傍聴して

小川みさ子／皮籠石久美子／原口百合子／山口祐子 24

主婦のわくわく井戸端会議

〔平和編〕 悪夢のような時代だからこそ

小川みさ子／皮籠石久美子／下野民子／並加真知子／浜田啓子 26

韓国・ナヌムの家への旅——おもいつきりソウル三日間 正田京子 30

「ナヌムの家II」アンケート分析・新作情報 44

TOPICS 延長国会は無法地帯——悪法つぎつぎに可決／第一回「白井博子・地の塩賞」募集 ほか 47

集会から 海上自衛隊の大阪湾大演習に反対する集会／第六回全国民オンプズマン神奈川大会 ほか 52

気になる英語 トランス・ベスタイトIII 奥川 睦 56

めじやーなりすとのめ 「男社会」って「なあなあ社会」? 松下佳世 58

沖縄から サミットと基地強化のリンクに反対!／アメリカの本音は? ほか 60

語りかけたあなたへ 書見台PART2 大里知子 64

あごら読書室 新版シマヌジュウリ／鹿児島的女性作家たち／女ひとり地方議会に春一番 66

あごらのあごら 69

イラスト 原田美夏・祝迫まゆ・山下桐子

女性が「自分を生きる」ということ

——鹿児島的女性作家たち——

相星雅子

今年六月、鹿児島に住む女の書き手七人が、それぞれの作品一編ずつを自選し、短篇小説集『鹿児島の女性作家たち』を出版した。このような形の出版は鹿児島では初めてということで、著者の一人である私は、このところ各方面からの質問せめにあっている。

「なぜ女性だけの小説集にしたのですか」

「一度は女声合唱をやってみたかったです。混声合唱をするまえに」と、私は答える。

女が小説を書く。これはとても気の滅入る仕事である。無論やめられはしないけれど。

家事、育児、親の介護、その他、種々雑多な要素を抱え込む日常の果てしないコマギレ時間の煩雑さに、心に満ちてくるものは散逸し、創造の岸につなぎ留めるのは難しい。たまさか一日机に向かえる幸運に恵まれたとしても、原稿のはかどりが悪ければ、女は自ら胸に爪を立てて血を流した。それだけの時間ミシンに向かえば内職のスカート一枚縫い上げられる、まな板に向かえば手の込んだ夕食を格安の費用で作れるのだから。連れ合いいい顔をしない。同人誌の会費を家計から持ち出すのに気後れを感じる。出版など夢のまた夢、今回も自己負担金を理由に参加を見合わせた人が少なくなかった。

競作の七人は、年齢も所属同人誌も小説の手法もまちまちなのだが、こうした状況の中で、より厳しい状況下に生きたさまざまな女性たちを描いてきたという根底のところで、同一テーマを持っているようなものである。私たちは、一冊の本に集うことによつて、まず、同時代を生きた同性の自画像をくつきりと描きだしてみたかったのである。

来るべき世紀、ジェンダーフリーは更に進み、悩みも苦しみも、人間という枠で、あるいは個性的個人のもので語られるようになるのだろうか。そのとき、私たちはきつと小説の混声合唱を楽しむだろう。

〈県内の女性議員を一〇〇人にする会〉の
男女共同政治参画セミナーで想うこと
——二千キロ応援の旅を終えて——

小川みさ子

四月の統一地方選挙は「女性に風が吹いた」と単純に喜んでいいのだろうか。確かに女性議員がふえたというのは事実だが……。

●八三%が当選

〈鹿児島県内の女性議員を一〇〇人にする会〉は、男女共同政治参画セミナー「女性議員をもっと増やそう」というバックアップ活動を始めて三年目になる。今春の選挙では、現職二人、新人四人の計六人がチャレンジ。現職一人を除く五人が当選した。新人の四人はいずれも無所属。

選挙後の七月三日、初の政治参画セミナーは、それぞれが選挙戦の感想（立候補の動機、かかった選挙費用、選挙母体など）や、初議会の印象などを報告、活気のある会となった。

前回、桜島舟券売り場の問題を争点に立候補、落選した山下富美子さんは、今回は上位当選。夫の運転する軽トラックの上でマイクを握り桜島を走りまわった。選挙事務所である自宅を訪ねると「差し入れご遠慮下さい」と貼り紙されていた。似顔



絵の選挙ポスターは首をかしげた優しいお母さん。頼もしい限りであった。

私も今春の選挙戦で生まれてはじめて風をきって走る軽トラックに乗り込み、マイクを握った。女性たちがいい風を送って町を変えるのだ！という意気込みに胸が熱くなった。

郡山町の前田佐枝子さん、東市来町の西園典子さん、加治木町の橋口孝子さんは、いずれもはらはらドキドキの最下位当選だった。が、集落に複数の候補者がいて、地縁血縁の色濃い地方選挙で戸別訪問せず、さし入れを遠慮したり、組織・団体の推薦を受けず、わずか数十万円の費用で当選を果たしたという快挙は、大都会でない分、またその価値は大きいのだと思う。

●その一方で皮肉な落選も

一方、県下の女性議員を一〇〇人にする会の代表で加世田市議だった平神純子さんは、無投票になってしまったことは、町にとってマイナスと訴えて、選挙直前に立った女性候補者と共に皮肉にも落選してしまった。

前回、彼女は看護婦、ヘルパーの経験を基に社会人学生でもあった。大学教師のすすめもあり、今こそ議会には女性・主婦・母親の声が必要と自ら手をあげた。臨月の大きなおなかを抱えての立候補は話題をさらった。

当選後は市川房枝記念会の政治セミナーで東京へ通い、鹿児島市の女性政策研究家、たもつゆかり氏のセミナーで学びながら、自らは県下の女性議員を一〇〇人にするためのセミナーを企画し、県下九十六市町村を調査した女性議員マップを作成するなど、啓発に力を注いできたが、そのかいあって鹿児島

県では今春九自治体に新しく十一人の女性議員が誕生し、九十六市町村のうち三十七市町村約四割の自治体に女性議員が在席することになった。各地で女性がチャレンジしようというきっかけづくりに平神さんの果たした役割が大きいことはいうまでもない。

幼な子をかかえ、議会に女性の声の必要性を感じれば感じるほどに活動に力が入り、マスコミにも支援をもらったが、自分の住んでいる町で何をしたかが自身の結果につながったと、平神さんは一期四年を振り返る。

全自治体に女性議員が誕生するよう、今後は出前講座も展開していくという意欲的な肝っ玉母さんぶりには思わずエールを送りたくなる。

●まじめでピュアで輝く女性議員たち

さて、今春の統一地方選で私は宮崎、熊本も含め十三人の候補者の応援に走った。早朝五時発、

100 全国自治体女性議員マップ

鹿児島県内の女性議員を100人にする会 男女共同政治参画セミナー研究班 1999年5月15日現在

ハガキ大は 5枚500円
ポスター大は 1枚1,500円

発行責任者 平神 純子 鹿児島県加世田市地蔵所376-2TEL/FAX 0993-53-7268
TEL 097-20018

協力団体・個人

- 女性を議会に! みんなと政治をつなぐ会(香川県)
- とやま女性政策研究会
- 柳川 道子 岐阜県

朝一番八時の宣伝カーで声を限りに応援し、午後には夜にと各候補者を応援しながら真夜中に帰りつく毎日。気がついたら二千キロ選挙応援の旅は、もう気力と体力だけが頼りというところだった。

串良町の助産婦、森山多賀子さんは、支援者ともども、幸福の黄色いハンカチを思い出させる木綿の黄色いネッカチーフと腕カバーで車からとび降り、緑の田畑やあぜ道をその黄色いネッカチーフを振りながらすいすいと走りまわって好成績で当選。長年の生命と向き合った地道な活動が実を結んだ結果だと思う。一足先の夏の選挙で指宿市議になった丸山勢津子さんからは、「周辺事態法も人工島建設も、もちろん反対だよ」と元気のいい声が届く。命の側、市民の目線を忘れない姿勢が輝いて見える。

私のまわりの女性議員、そして共に活動する女性たちに総じて言えることがある。

「女たちはまじめだ！」

よく学び、よく情報交換し、行動が早い。そのうえなれあわずに、是々非々で判断する。このようにピュアな女性議員が誕生すると、傍聴者も増え、市民にとって議会はグッと身近になる。郡山町は初の女性議員が二人も誕生、本会議場の傍聴席が満席だったとのこと。頼もしい。

「天の半分は女性なのだから、もつと女性を議会に！」の動きの陰で女性議員の質が問われたりするのも事実だが、でも私たちの仲間には「先生」と呼ばれてふんぞり返っているような人はいないし、企業献金、あつせん利得で私腹を肥やしそうな人はまずいない。住んでいる町を、もつともつと住みやすく変えていこうと、女たちはピュアで輝いている。

そういえば、「選挙母体は」とたずねられ、新人女性たちの「私自身です」との答えが印象深い。企業や組織がバックにない素人のボランティア型選挙は、特に二期目が厳しいといわれる。それもそのはず、企業の社員とその家族というような母体や基盤票もなく、自分自身の一票からの積み上げなのだから、

覚悟をして臨まなければならない。私自身、時々吹きっさらしに立つ思いで不安になったりするが、がんばるしかない。

●活動の結果を本にして、議会を身近に

私は、公約の一つに「市民参加のまちづくり。すべてを情報公開します」と、市民に誓った。それで、『いのち・未来・かごしま——おひさま通信』という議会だよりと、各議会ことの発言と答弁の内容、さらに市民にとつてあまりにかけ離れた議会のルールやシステム、そして議会用語などをイラスト入りで解決した「議会豆ちしき」として盛り込んで、『女ひとり地方議会に春一番』（BOC出版部）にまとめた。

現職議員は公選法に縛られていることや、実名をださない、個人の名誉を傷つけないようにしながらも、等身大で議会で起きていることを伝えるためのリアリティは欠かせないなどの条件に気を使い、会議録の答弁をコンパクトにまとめ、「議会豆ちしき」は専門書で確認してハウツー的要素を加えて中学校の公民資料風に仕上げた。心にそまない本はつくらないというBOC出版部の信念と、見えにくい議会をガラス張りにしてほしい！と私に託された市民の思いなど、たくさんのご協力や支えがあつて、たいへんな難産の末、出版にこぎつけたのだった。

さっそく新人女性議員の議会だよりが届く。ネーミングが『ひまわり通信』とか、『いのち・未来・生活』だったり、議会豆ちしきを引用して下さったり、個人質問や議員報酬の収支報告や活動日誌など、具体的でとてもわかりやすい。ほんのわずかに先に議員を経験しているだけに、新しい風が心嬉しい。

●議員と市民のパートナーシップで議会を改革

バス代から水族館や文学館の入場料などまで、私たちをとりまく生活のすべてが議会で決まる。だからこそ市民が不在では困る。なのに経験や知識がなければ議員は無理、といわんばかりに新しい風を封じ込めようとする。これじゃいつまでたっても市民の声は届かない!!

自分たちの住んでいる町をもっともつと住みやすくするには、議会が身近であることが一番だが、鹿児島市議会は長いこと陳情審査以外の議会運営委員会は傍聴できなかった。つまり、どんなことが議論されているのかまったく見えない密室だった。

議会運営以外のルール・慣習・政治倫理もとり上げられるところで、私も危うく新しい芽をすべて摘まれてしまいそうになった。このままじゃつぶされる! SOS! それには市民の傍聴しかなかった。市民であるお母さんたちがそのことを察し、ねばり強く人海戦術で私の控え室で待ち続けた結果、学校の校則よりもたいへんな議会の規則を、しつかりと手を取りあつて、変えることができた。議会の傍聴、全面公開は、小さなことのようにだけど、閉ざされていた窓が両開きになり、市民が自由に出入りできるようになったということなのだ。さらに傍聴だけでなく、陳情・請願を提出するお母さんたちも、かなり増えた。あきらめずに一歩づつ積み重ねていくこと、市民が女性議員に期待することは、市民と共にあり続けるということだと思う。



かごしまの女は 「自分」を生きているか

〈出席者〉

上ノ原歌織(24歳)/横田淳子(24歳)/古里なおみ(36歳)
中山マサ子(44歳)/大場桂子(40代)/喫茶店〈さくらひらひら〉店主(49歳)
浜田啓子(60代)/川崎清子(70代)
(あごら編集部)斎藤千代/真木 泉

1999年4月26日



静かな住宅街の一角にあるオアシスのような喫茶店へさくらひらひらに、元気な女たちが集った。四月二十六日、チエルノブイリを忘れないためのこの日、ハーブティーを飲みながら、女たちの「いのち」を見据えた楽しいおしゃべりが始まった。中心人物の小川みさ子さん(鹿児島市議)は急に議会が入り、欠席。司会者の古里さんが口火を切る。

店を持ったひと、これから持つひと

古里 まず自己紹介でもしながら、ぼつぼつ始めていきましようか。さつそくですが、私は鹿屋の古里です。

斎藤 あら、鹿屋から。

古里 ご存じですか。特攻隊とかで有名ですからね。海上自衛隊のある、あの鹿屋です。パッチワークをやっています。店を持つて十年になります。二十七歳で自分の店を持ちました。パッチワークをやっている途中で結婚して、途中で子どもが生まれたって感じ。今、夫は子守をしたり、料理をしたりしながら、陶芸をやっています。

斎藤 先ほどの方がパパなの。気を使われて出ていかれたの？

古里 いいえ、初めから子守のつもりで連れてきましたから。そんな感じでみんなに悪妻と言われています。自分ではそう思っていないんですが(笑)。

横田 古里さんと同じく、鹿屋から来ました横田と申します。今年度くらいに自然食レストランをやろうと思つて、今勉強中です。世間のことはあまり知らないのです、今日はいろんな方のお話を聞いて勉強させてもらうつもりで来ました。よろしくお願いします。

斎藤 どうして自然食レストランを開こうと思われたの？

横田 もともと高校で調理の勉強をしていました。お寿司屋さんやホテルの調理場で働いていましたし、いつかは店を持ちたいと思っていました。花屋さんで働いていたときにハーブに興味を持ったので、フラワーアレンジメントの勉強も兼ねてイギリスへ行きたいと思ったのですが、予算が足りなくてニュージーランドに行きました。向こうでハーブを育てるファームでお手伝いしているうちに、日本に帰って自分でハーブを育ててみようと思つて、できたらハーブを使った料理を出すレストランをやってみたいと思つて。両親に話したら、じゃあ、やってみろって話になつて。

中山 中山と申します。無職です。今、古里さんのところに居候しています。ここ二年くらい何となく居候していることが多くて、淳ちゃん(横田さん)の自然食レストランの開店に向けての準備をお手伝いしています。

真木 もともとはどちらですか。

中山 東京です。浅草で生まれて入谷で育ちましたから、三社祭のときとか御輿をかついでました。

古里さんとは『自然食通信』という雑誌の読者投稿欄に『女たちのアジア』の読後感を出したら、それを読んだ古里さんから手紙がきて、それ以来文通が始まって、知り合つてから十年以上になります。あの『自然食通信』は、情報誌としてとてもいい雑誌だったのに廃刊になつてしまつて残念ですね。

真木 廃刊になつたのですか。本当に残念ですね。

大場 大場と申します。市内に住んでおります。今年定年退職をしまして、自然食品に興味があるもんですから、東京まで料理を習いに行つてます。マクロビオティックのリーマ・クッキングスクールです。

横田 あれ、一緒じゃないですか。私は初級で始めたばかりです。よろしくお願いします。

大場　そうですか。どなたか鹿児島から初級で通われるって聞いてましたけど。私は中級が終わったところです。

斎藤　それなら、わざわざ東京までいらっしやらなくても、こちらでお習いになったら？

大場　リマ・クッキングスクールの土日コースは、全国、沖縄や北海道、あっちこっちからいらして、とても楽しいんです。

独りも楽し……

（川崎さん来場）

川崎　川崎です。初めて来たもんで、遅れてしまつて。

古里　何で来られました？

川崎　バスです。敬老バス。バスが自由ヶ丘とか魚ヶ原とか桜ヶ丘をぐるぐる回って、まあ、私ひとりで乗ってて心細くなつてね。東谷山小学校へ行くんですけどって言ったら、ここで降ろしてもらった。すぐにわかつて、やっと安心しました。

大場　ええ、心細いですよね。ひとりで初めてのところに来るのは。

川崎　えーと、小川さんと親しくさせてもらっていて、今日は来ました。独りで住んでいます。今は娘も息子も県外におるもんで、何かあったら小川さんがかけつけてくれることになっています。

古里　小川さんがかけつけてくれるなら安心ですよ。遠い親戚より近くの他人っていいですからね。ただ血がつながっているだけで、まとわりつかれるくらいなら、気の合う他人のほうがずっと楽ですよ。いい関係でたまたま血のつながりがあるっていうならいいわけけど。

真木　昨日、東京から来ました。BOC出版部と（あこら新宿）の真木と申します。今夜、小川みさ子さんの出版記念パーティーがあるので、斎藤と一緒にまいりました。昨日はアースデイの街頭行動と『教えられなかった戦争・沖縄編』の上映会に参加させていただきました。鹿児島の方性たちの元氣な姿に触れさせてもらいました。鹿児島の方性たちの交流を楽しみにしてまいりましたので、よろしくお願いいたします。

浜田　えーと、浜田です。独りで暮らしています。毎日、何だか忙しく暮らしています。

古里　なんでそんなに忙しいんですか。

浜田 天然酵母でパンを作ったりとか、綿を植えて糸をつむいで、それを草木染めしてみたりして、楽しんでます。あと、廃油で石けんを作って、自然食品店で販売してもらったり、何だか忙しいのよ。

中山 天然酵母ですか。うまく作れますか？ 淳ちゃん二人で彼女の育てたぶどうエキスを使得って酵母作りをしてみたんですが、とにかくちつともふくらまなくて、淳ちゃんの顔ばかりがふくらみました(笑)。「もう嫌！」というのをなんとかなだめたんですが。今度ぜひ、教えて下さい。

浜田 あら、そうだったの。何が問題だったのかしらね。

古里 今日のテーマは、一応「かごしまの女は『自分』を生きているか」ということなんですが、何か今の自己紹介を聞いていても、ここに集まっている方たちはしつかり自分を生きているなあって感じがしたんですが。

川崎 皆さん頑張つてらしてねエ。私は独りだから、誰にも気をつかわなくて、好きなことしてます。公民館で水彩やフラダンスを習ったり、たまには友達と二人で海外旅行とかにも行ったりね。遠くに子どもがいるもんだから、遊びに行くのも、それはそれで楽しみだしね。

古里 いいなあ。川崎さんも自分を生きてますよねエ。だつ

て自分の時間も楽しんでるし、小川さんとか年齢違うじゃないですか。それでもお友達になるっていうのは、日常で楽しんでるからじゃないですかねエ。

中山 うちの母は今年七十九になります。しばらく会ってなくて、旅先から帰ってきてても、自分の家においてとは決して言わない。電話しても「あらあ、いつ戻ったの。元気でよかったね」で終わっちゃうんです。お友達に恵まれているらしくて、口うるさい娘がそばにいるより、独りのほうがずっと幸せなんじゃないかと思う。年寄りが独りで暮らしていると可哀相という図式はちよつと間違っているよな気がして。

年齢とか性別とかもまったく関係なく、そして、独り暮らしが家族と同居しているかということにも関係なく、幸福っていうのは、たぶん自分をどれだけ生きているか、ことに比例するんじゃないかって思えます。

古里 うーん、そうですねエ。ほんとそう思う。そういえば浜田さんは自宅で絵本の読み聞かせをされているんですよ。

浜田 絵本を読むのが好きなの。近所の子どもたちが喜んで聞いてくれるわけでしょ。こんなに嬉しいことはないわ

けだから、いつそのこと自宅を開放しようって思って、「ばばあちゃん文庫」って命名までして、子どもたちに絵本の読み聞かせをするスペースをつくっちゃったのよ。

古里 すごいパワフルなおばあちゃんですね。私なんて二人の娘だけでもへとへとなのに。もう保育園様さまの日々でしょ。小学校に行くようになって、早く帰ってこられたらどうしようって今から脅威ですよ。浜田さんみたいな人が近所にいらしたら素敵なのになあって思います。

母の病気を契機に自然食を学ぶ

大場 私もひとりですが、毎日楽しく生きています。

古里 どうして自然食を始めたんですか？

大場 母がガンになりました、西洋医学の病院では治らないと言われたんです。その先生はガンを本人に告知しないと治療ができないとおっしゃるので、母に告知することができなかったものですからその先生とはそのままになりましたが、自然食もされていましたので、関心を持つきっかけになったんです。それと、私自身も帯状疱疹が出て、神経痛にならないようにしなければいけないのに、手遅れで

注射をしても治らないと言われて、氣功とか鍼をやっている先生を紹介していただきました。たまたまマクロビオティックの川上祐喜^{ゆき}子先生が出入りされていた自然食品店がうちの近くにあったものですから、そこで先生ともお目にかかることができたんです。

古里 何という店ですか？

大場 「四季祭（しきさい）」です。川上先生のところで勉強させていただいて、母親に対しても「生きている間にこれを知っていたら、もっと手立てがあったのに」という後悔もあるし、自分の病気のこともありまして、自然食になりました。

見回してみれば添加物だらけの食品に囲まれていますでしょ。なかなかきつかけがないと自然食に目覚めるのは難しいと思いますけれど、こういう添加物ばかりの食品というのは、地球環境も汚しているわけですよ。ですから、自分のことだけではなくて、環境汚染のことを考えても、消費者が賢くなって、多少キュウリが曲ついても安全でおいしいものなら買うようになって、自然食が広がってほしいと思つてます。

斎藤 私も自然食や正食信仰の方をたくさん知っています

けれど、どこに行くのでもそれをお持ちになって歩いてい
る方がいらつしやるでしょう。そこまでののは、どうか
しらつて思います。私は、水だけはいいいものを取り寄せて
使つてます。

大場 私も水は大切に思っています。磁気水を使つてお料
理もします。

斎藤 あら、私も。波動のね。

大場 水のイオン値がありまして、プラス20からマイナス
20まであるそうですが、うちの水はプラス19です。鹿児島
の水はマイナス2ということです。

中山 それはつまり水も生きていて、同じように見えるけ
れど水の中にも生命力の強いものと弱いものがあるという
ことです。

大場 ええ、そういうことです。それと、正食というのは
食養ですから、病気のときはきつちりとやらないといけな
いんですが、回復しましたら、後は抵抗力も自然とついて
いますので、たまには他のものを食べてもいいんです。み
なさんと楽しくおいしくいただくというのも体にいいこと
なんです。ですから、斎藤さんのおつしやるようにあまり
神経質になる必要はないと私も思います。

古里 自然食が広がつてほしいとおつしやっていました
が、何かされるんですか？

大場 はい、やろうと思つています。

古里 お母さんには結局告知はされなかったんですか？

大場 はい。もう何度言おうかと迷いましたけど、言いま
せんでした。新聞に連載されているお医者さんの話ですけ
れど、患者さんに「あなたはどれくらい生きますか」と聞
かれるそうです。それで「じゃあそれまで頑張つて生きよ
うね」とおつしやるそうなんです。母と暮らした経験から、
告知する場合は、その人を支える体制ができてないと、と
思います。私たち姉妹はみんな知っていましたけど、父にも
言わず、本人は気づいていたかもしれないけれど、母は
そこにいるだけでまわりが明るくなるというような人でし
たので、最期までそんな感じでしたから、言わなくて良かつ
たかなつて思います。

古里 告知するかしないかつていうのは、どういう医者と
出会うかつてことでも左右されるし、本人の性格とかも関
係しますね。

斎藤 最期までお母さまがにこにこしていらつしやつたん
なら、告知はされなくて良かつたのね、きっと。

大場 ええ、突然に亡くなられるのも、残された者が大変なんです。気持ちの整理もつかないし、こんなに突然逝かれるなら、もっと優しくしてあげれば良かったって後悔が残るんです。父の場合は本当に突然で、叔母とかは「兄さんのように死にたい」と言っておりますが。

古里 本人の立場になれば、痛みはあったかもしれないけれど、長引かずに逝かれてよかったのかもしれないわけですが、残された者の理想的な死に方はまた違いますね。それと、自分は告知してほしいけれど、家族とかに告知するかという別の問題がありますよね。こつちも知っていて、本人も気づいている。それを言わないまま、最期の時を迎えてしまつて、医者も形どおりの心臓マッサージとかするわけですが、「これは何か変だなあつて思つた」というお医者さんの本を読んだことがあります、難しいですね。

死とは「永遠に眠る」こと

中山 私は突然死んでもいいんじゃないかと思つてます。

死というのはそういうものですよ。もちろん、ちゃんと身辺整理して、お別れを言えるというのもいいけれど、周囲

の人たちがちよつと安心するだけであつて、本人の問題ではないつて。

店主 ちよつといいですか、この店をやっている浜田です。私もいつ死んでもいいと思つてます。うちの子どもにも、もし私が死んでも悲しまないでねつて言つてあります。残された者は、死んだ者が痛むと思つて可哀相に思ふんです。でも、死は可哀相でも何でもない。夜寝るときは、今日一日の終わりで死ぬのと同じなんだつて。なかなか眠れないときは、今夜は往生際が悪いなつて思つたりして。

川崎 永眠つていうでしょ、永遠に眠つてしまつてことですな。

店主 そうそう。世の中で死というものを大げさに考えすぎているような気がします。これが、夫と死に別れて二十年ももつたもんだして考えついたことなんですけど。早めに私がこういう価値観で生きてきたということを周囲の者に知らせておくのが大事じゃないかしら。それが周囲の者に対する優しさじゃないかしらね。

川崎 私は遺言を書いてあります。

古里 えっ！ どんなことを書いてるんですか？

川崎 持つてくればよかったあ。

中山 私も書いてるよ。

古里 えー、どんな？

中山 私の場合は、こんなふうな生活をしていて、荷物を従兄弟や友達に預けていますから、路上で死んでしまう可能性も高いなあと思ってたし、そういう覚悟でないとやってられないじゃないですか。母がまだ生きていることもあるし、荷物を預かってくれている人たちに対してできるだけ迷惑をかけたくないから。

たとえば、意識のある状態だったら告知してくれとか、延命治療は一切しないようにとか。保険はどんなのに入っている、その使い道はこうしてほしいとか。けっこう思いつく限り細かく書いてます。

川崎 私はそこまではくわしく書いてないけどね。やつぱり独りで暮らしているから、何かあったら他の人に迷惑かけるしね。



気の合つたつれあいと気ままに暮らす楽しさ

古里 なるほどねエ。独身時代は私もいつ死んでもいいなあと思ってたんですが、今娘が四歳と二歳ですから、自分は突発的なほうがいいけど、もし急に死んじゃうと彼女たちが可哀相だなって思う。あと十年くらいは彼女たちのために生きていたいなあって思います。まあ、日々好きなことをしていますから、あとはどうなってもかまわないんですが。

中山 本当に、いいんですよ。私が来てから一か月くらいになるけど、夕飯をなみちゃんが作ったのって二回くらいじゃなかった？

古里 そんなことないかあー？ もっと作ってるわよ。コロッケも作ったし、ハンバーグだって作ったでしょ。

中山 でも、まあ四、五回だよな。

真木 夜出歩いているの？ 何か活動しているとかで。

古里 いやいや、そんなんじゃない。

真木 そうじゃなくてつれあいがやってくれるの？

古里 そう、そうなんです(笑)。お互い子守りと料理なら

料理するほうがいい、って考えるタイプなんで（笑）。

でも子どもは母親でないと駄目っていう時があるじゃないですか。特にまだ母乳を飲んでる頃とかは、彼は交替できないわけですよ。誰でもできることのほうは俺がやるって。うちの人は何でもできるし、料理とかは好きだから。

我が家のお家事情になってしまいましたが、定年退職後の年金や生命保険を楽しみにして今という時間を我慢しようっていうのじゃないことは確か。食べられればいいって気楽に考えて、あとは好きなこととしてるって感じです。

中山 鶴丸さん（古里さんのお連れ合い）は口は悪いけど、この日本の社会にあつては、かなりのフェミニストだと思います。お風呂も焚いてくれるしね。

古里 私が焚くこともあるでしょ。新聞読めるからあれはけっこう楽しいのよ。

真木 えっ、薪なの？ 手に入れるの大変でしょう。

古里 それが、埼玉県の方で次郎風呂というのを作っている方がいらして、紙でも焚けるんです。廃品回収の日にまわって新聞を集めてきたり、建築中の廃材をもらってきたりもしています。

パーマカルチャーで開眼

中山 淳ちゃんには、去年の三月にニュージーランドで会ったんです。

大場 旅をしていてですか？

横田 いえ、同じ英語の学校です。

古里 淳ちゃんが鹿屋だつていうんで、マサ子さんが手紙を淳ちゃんに預けて、うちまで届けてくれたというわけです。

横田 まさかNZの片田舎の街で、鹿屋に知り合いがいる人に会うなんて思ってたから、本当に驚きました。おかげさまで古里さんのところでもいろいろ教えて頂いたり、お世話になっています。

中山 淳ちゃんが帰国した後、私のほうは学校をやめて二つのファームで手伝いをしたのですが、二つ目のファームには三か月ちょっと滞在しました。そのファームの女性が化学物質にもすごく過敏で、たとえば近所の農場で除草剤のスプレーを撒くと、彼女は吐いたりして寝込んでしまふということを七年もくり返してきて、二年前には生死を

さまよったそうです。日本に帰ってきて「化学物質過敏症」という言葉を見つけて、日本でもそういう方がいらっしやるというので驚かされました。

電気はソーラーエネルギーだけで、掃除機とかは晴れた日しか使えなかったり。パネルが確か六枚くらいついてたかな。家の建物に使われている塗料もすべてドイツから輸入した自然素材のものということでした。そんなふうに敏感な人でしたから、オーガニックファームということもあるけど、食品については調味料から一切合財添加物なしの質の高いものでしたから、おいしくて、改めてベジタリアン食の魅力に取りつかれたって感じですよ。

遺伝子組み換えの問題点も、彼女が私にわかる言葉を選んで絵を描いてくわしく説明してくれたので、よくわかりました。

パートナーの彼は、アルコール中毒とかで妻に暴力をふるう男性たちが立ち直るためのレクチャーをしている人で、他にもWaiheke Islandのゴミの問題にボランティアスタッフで参加していたり、コミュニティに積極的に関わっている人でした。それからパーマカルチャーの紹介もしています。「パーマカルチャー」というのは、permanent

(永久的)とagriculture(農業)とが合わさってできた造語ですが、「持続可能な農的暮らしのデザイン」と訳されていたかな。このデザイン体系がいいのか悪いのか、まだよくわかっていないので何とも言えませんが、直感で、これは理想的な社会のビジョンを創造する上で、とても役に立つ理論じゃないかって思ったわけです。

二十代の初めに有吉佐和子の『複合汚染』を読んで以来、ずっと考えてはいましたが、あのファームでたくさん問題がものすごく身近に感じられて、一見ばらばらに見える問題の根源はひとつなのかもしれないと思いました。あまりにも複雑にからみ合っていますから、これをちゃんと整理しなきゃいけないのですが、日常の中で少しずつ根気強く、問題解決の糸口を見つけないながら、理想像を明確にしたいと思っています。

福祉を生涯の仕事にしたい

(上ノ原さん来場)

上ノ原 遅れてすみません。上ノ原歌織と申します。今は鹿児島女子短期大学に行っております。今回、新しくでき

た生活福祉を専攻し、福祉の勉強をしています。

今回は女性問題というか、自分探してみたいなお話ということで、そういうことに興味がありまして、いろいろ皆さんとお話し合いをしたいと思って参りました。

古里 何で福祉専攻にしたのですか？

上ノ原 高校時代から興味があって、高校の時に迷ったんですが、そのときは秘書にも興味があつたんで、そちらを選んだんです。この前まで秘書として働いてました。仕事をしながら時々ボランティアとかやっていて、考え直してこちらのほうが自分にとってやりがいをもって、仕事としてやっていけるんじゃないかと思って、本当に悩みましたが、今年二月に決めました。

古里 学校はどうですか？

上ノ原 まだ入ったばかりで……。でも興味のあることですから。

斎藤 会社では何年働いていらしたの？

上ノ原 四年です。

斎藤 それで貫禄がおりになるのね。頼もしいですよね、こういう若い方が福祉に興味を持たれるというのは、福祉というのは環境づくりと重なってますでしょ。フェミニス

トの方たちは環境問題に必ず関心を持つのに、環境問題を考えている方は必ずしも女性問題について考えられるとは限らないんですよ。あれはどういうことなのかしらね。小川みさ子さんは両方やつてらっしゃるでしょ。

古里 うーん、ほんとにそうですね。

中山 そうですよ。一般の何も運動に関わっていない人たちでも、人種差別ならとりあえず関心を持ちますよね。でも女性差別はほとんど気がつかれることがない。女性にとつても男性にとつても習慣化されているので、問題になりにくいという気がします。

「女性最後の植民地」と表現されたのは誰だったか忘れましたが、つまりそういうことなんじゃないかしら。いろんな差別の中で、さらなる差別が常に女性に向けられる。斎藤 そうそう。だから女性問題から入ると沖縄がいかに差別されているかよくわかるし、米軍基地の問題にもずっと関心がもてる。みんなつながっているわけだから。

それでも他のグループの方たちからは、「そんな他のことに関わってばかりいて、もっと女性問題を一生懸命にやれ」って言われちゃうこともあるんです。私たちにとつては、沖縄も、平和も環境も、みんなひと続きなんだけど。

女性問題は「構造的な問題」

中山 日本はいわばアメリカの植民地ですよね。アメリカの軍隊が自国の民より大きな顔をして、立地条件の一番いいところをすべて占領しているんですから。

一九四五年八月十五日を「終戦」と言つてごまかさずに「敗戦」という事実をきつちり受けとめるべきだったという気がします。そうしなかったために日本はものすごく複雑なゆがみ方をしてしまった。農業も遺伝子組み換えも、原発も、みんな糸をたぐつていけばアメリカという国にたどりつくわけです。こういうとアメリカが悪いのかって思われるかもしれないけど、多くの有権者たる日本人が、私を含めて、現実を直視せずに日本国民としての責任を放棄してきた結果だと思っています。

斎藤 よく言つてくださったわね。アメリカの植民地なんて言うのと過激な発言だなんて言われちゃうでしょ。でも本当にそうなのよね。構造的な問題なんです。

中山 構造的な問題として捉えないと、部分的な解決は対症療法でしかないから、必ず後遺症を残します。政治に関

心がない人が多いといわれていますよね。私もあるほうではありませんが、避けて通れないことも知っています。それと、どうして関心が薄いかというと、社会の構造自体が見えにくいからじゃないかと。

小川さんが議員になって、私たち、政治が身近になったと思います。行政は、とにかく市民にすべてを公開することと、あらゆる仕組みをシンプルにすることじゃないでしょうか。それと、すべてを行政の責任にしないで、有権者であり、消費者である立場のすべての人たちが生活の中で疑問を持つてほしい。にんじん一本買うにしても想像力を発揮して、いくら安くても、利潤だけを追求した大規模農場の農薬まみれのを買うのか、たとえ高くても除草剤を使わず、たんねんに雑草を刈つて、化学肥料を使わずに百姓の英知で育てたものを買うのか、考えた上で選択してほしいなあと思っています。幸いなことに、今は選ぶ権利も自由もあるわけですから、そして、それを選ぶということの意味や結果まで考え抜かないと、世の中はいい方向に変わっていかないって思います。

吉里 そうなのよね。有権者と消費者は異なるわけだし、選挙で誰を選ぶかっていうときにも、生活の中で問題意識

がないと流されちゃうんですよ。

中山 私だって完璧じゃないし、いつもいつも十分に考えて行動しているわけじゃないんですが、今まで話してきたように、どんな問題も根っこはひとつのような気がするし、この社会構造をしつかりと理解しないと、どんな運動もう進めないとこに來ているんじゃないかなあって思います。問題が多すぎるし、あまりにも複雑なんで、方向性を見失っているような気がするんです。これは、私自身がどう生きていけばいいのかわからなくなつて、道を見失つた結果思つたわけです。私は、どういう社会を快く感じるのか、たとえ理論と非難されても、現実をしつかり受けとめた上でビジョンを打ち出したいなあって。できれば、こんなことを考えている人たちと出會つて話し合いたいですよね。

古里 えーと話はあちこちに飛びまして、テーマである「かごしまの女は『自分』を生きているか」という論点にどこまで迫れたかわかりませんが、「みんな元気で楽しそう」というのが、私の結論です。じゃあ、そろそろ次の小川さんの出版パーティーの会場へ向かいましょうか。

斎藤 あつ、ちよつと一言いいですか。東京の国立市では

女性市長が誕生しましたし、女性県議ゼロ県も十県から三県に減つた。全国の女性地方議員は初めて一〇%を超えた、と女性たちは湧き立っています。昨日の選挙の結果は、鹿児島では思つたほど伸びなくて、と小川さんからうかがいました。でも、今日ここにお集まりの皆さんにお会いしまして、力強さを感じました。鹿児島はまだまだこれから發揮されていくんじゃないかと、今後がますます楽しみになりました。皆さん自然体で、それぞれの人生を楽しんでいらつしやるのも嬉しいですね。たくさんのオーラを頂きました。ありがとうございます。

*

お開きの後、静けさを取り戻した「さくらひらひら」の店主、浜田さんにお願いをしてピアノを弾いていただいた。ほとんどの人が初対面にもかかわらず、そして年齢も二十代から七十代までの人たちのなかに、かなり本質に迫つた話し合いができたのは、長い間差別されてきている性を共有する者たちだからなのか。いや、それだけではない。この日集つた鹿児島の人たちは自分をしつかり生きています。みんな繊細にしておほか。だから、終始明るい笑い声が絶えることがなかった。（まとめ・中山マサ子）

鹿児島県・錦江湾に人工島!?

ゴーサインに桜島も怒りの爆発!



共生ネットワークTekuTeku

この夏は桜島の噴火がとても激しく、自然を破壊して借金してまでも「錦江湾に人工島建設」という公共事業をすすめるようにという衆愚政治に対する怒りと思えてなりません。

名古屋市の藤前干潟埋立計画は環境評価によって事業が中止になるなど、日本全国で公共事業の見直しが続出し、建設省も今までの環境破壊型の工事のあり方を反省しているような時代だというのに、私たちが住む鹿児島では、五か月間、人工島問題で鹿児島市議会は空転をくりかえし、異例の会期延長の大揺れの結果、あらうことかゴーサインが出てしまったのです。

人工島建設は公有水面埋め立てといつて、桜島が雄大にそびえる錦江湾に六十七ヘクタールの人工島をつくり、七万トン級の豪華観光船が接岸できる埠頭や日本一の国際会議場、ホテル、広域防災のためのヘリポートまで造るといふ計画です。

人工島問題の経過

90年

- ・県総合基本計画
(大型観光船用埠頭整備)

93

- ・計画改訂

96

- ・人工島造成が盛り込まれる。
- ・鹿児島市議会、「人工島早期整備を盛り込んだ意見書を全会一致で可決。」

97

- ・9・新聞報道により、人工島計画が「おかしい」と気づいた小川みさ子議員は、本会議で環境アセスメントをきちんとやるように指摘。

98

- ・4・国が人工島計画を「フロンティアアイランド事業(廃棄物埋立護岸等整備)」として採択。

11

- ・人工島を考える県民の会が発足

99

- ・1・三漁協が建設中止を申し入れ。県が埋め立て免許願書を提出。

(環境影響評価はなぜか67ヘクタ

ールのうち24.7ヘクタール実施)

・埋め立て免許願書の縦覧

(約百三十件の意見書やほかき)

・鹿児島市長は知事の諮問を基に市議会に同意議案を提出。

3・県議会で人工島予算案可決。

・人工島反対協議会発足(我々座系)

5・鹿児島市議会は三月議会で結論出す、人工島審議再開。

・錦江湾に人工島なんていらない県民の会 発足(社民系)

・鹿児島市民ら六十一人が人工島工事差し止め請求を鹿児島地裁に提訴(小川みさ子も原告)。
・県商工会議所が人工島推進の県への要望決定。

・鹿児島市は約束日(28日)に回答できず、知事は回答期限を延長(二回目の延長)。

6・〈オンブズマン鹿児島〉の内田伸子さんが、漁業補償に関する損害賠償請求を、県と知事を相手

取り鹿児島地裁に提訴。

・国が環境影響評価法を施行。

・県が人工島の経済効果を七十一億円と発表。

7・〈錦江湾に人工島なんていらない県民の会〉が住民投票案例制定への活動開始を決定。

・六月市議会会期再延期、再々延期。

・建設委員会での足掛け五か月の審議の末、二人が退席して三対四で可決。

・本会議は賛成二十三人、反対十五人、退席九人で可決。

※今後は県知事が埋め立て免許認可申請をし、運輸大臣の認可が下りれば、埋め立てゴーサイン(免許告示)。

こんなのおかしいー まず知ろう

私たち(共生ネットワークTekuTeeku)は、女性政策に深く関わりを持つグループですが、女性がエンパワーメン

トするということは、環境問題や税金の使われ方なども含めたあらゆる社会問題に関心を持ち、判断する力をつけることだと考えています。だからこそ主婦である私たちは、正しい情報が知らされなかったことに憤るばかりでなく、知ろうとしなかった自分たちの姿勢をも反省し、まずは知る作業にとりかかりました。

新聞情報に加えて、直接記者の方や市民グループの方のお話も伺い、議会の傍聴もする一方で、鹿児島市都市計画課の〈かごしま まちづくり出前塾〉をお招きして学習会も開いたのです。当日は五人もの職員の方々がパネルや模型を準備され、第一回目の出前塾ということで、マスコミの取材もありました。私たちは人工島建設における具体的な経済効果や、次の世代に財政負担を残すことについて質問しましたが、あいまいな説明しか聞けませんでした。陸のまちづくりは自然を壊さないようにとの配慮で市街化調整区域もあるが、海岸線の保護のため

の区域もつくってほしい」「人工島について

の行政情報はわかりにくい。判断材料にふさわしい情報を提供してほしい」などと注文をつけました。「出前塾という企画は住民に情報公開する試みとしては評価しています。市民が行政を見ているぞ」というアピールになればいいですね」と代表が報道機関にコメントしました。

市民と行政のパートナーシップの一步になればいいのですが……！

人工島の問題点はこんなに――

1 総面積六十七ヘクタールの人工島計画なのに、環境影響評価は二十四・七ヘクタールのみ実施した(脱法行為の疑い)
↓五十ヘクタールを越えると開かなくてはいいない住民説明会を避けるため？

2 環境影響調査は二十四・七ヘクタールなのに、漁業補償は六十七ヘクタール分十六億円支払い済み。

↓十六億円という額の積算根拠も二重補

償の疑問もヤミの中へ。

3 当初の計画では国の許可がおりないことがわかり、「桜島土石流除去対策」ととってつけたような理由が急浮上。

↓が、桜島土石流の捨て場は十九年分もあるから、人工島建設の許可理由はなくなった。
↓県所有の未利用地も三十二・九ヘクタール。石播の空地を入れると百三十五ヘクタール以上。人工島が二つもつくれる空地の有効利用は議論すらされていない。

4 人工島建設費は八百〇一千億円(すべて税金)だが、増額が予想される。

↓赤ちゃんまで入れて県民一人当たり七十一万円、総額一兆二千七百億円の県の借金をもっとふくらむ(宮崎県シーガイアは第三セクター方式で二千百億円赤字)。

5 人工島維持すら不安なのに、人工島経営効果は年間七十一億円と県が発表。

↓七十一億円の積算根拠は、大型観光船

がきつと今より寄港する、乗客数もオプショナルツアーをもっと増える、お土産もたくさん買う、見本市、展示施設、国際会議、多目的広場のイベントでにぎわうだろう……と、すべてが希望的観測による期待値。

6 人工島は新川と脇田川の河口に挟まれたような形で、錦江湾にデーンと埋め立てられる海にとってはコンクリートの異物。海の生きものは？ 環境は？

↓埋め立てにより、今まで氾濫を引き起こしていた新川にさらに土砂堆積が起りやすくなり、台風などの時に今まで以上に出水氾濫に脅かされる恐れがある。
これでも建設に賛成できますか？

(まとめ 小川みさ子)

◆取材協力

皮籠石久美子、山口祐子、大山郁代、赤星貴子、諏訪田あつ子、西村佳子(以上共生ネットワークTekuteku)
溝口貞雄(オンブズマン鹿児島代表)

みさ子 今回の人工島審議はなんとも後味の悪い結果で、いまだにキツネにつままれたような悪夢の中にいる気分。でももちろん、まだあきらめてはいないわ。

百合子 そうよ。私は時間の許す限り傍聴したけど、賛成派って、これこれこういう理由で人工島は必要だって、誰も主張も質問もしないのね。押し黙ったままで。

久美子 わたしたちのグループでは、なんとか傍聴に行こうと声かけあったんだけど、行ってみると休憩、休憩。でも運がいいのか悪いのか、あの決定的場面を傍聴できた！ すっごい暗い顔して二人の議員が退席した。議会の廊下は各放送局のセットでまるで移動テレビ局のよう。ものものしい雰囲気の中、すっごく緊張感が漂っていたわ。息をのんだの傍聴。百合子 私は入れなかったのよ。鹿児島市民は五十五万人いるのに委員会傍聴は八人しかできないの。仕方なく、放送局のモニターテレビを見てただけど、あつけないのなんのって…。三十日間の

集中審議が、退席というハプニングの後、三対四で否決という幕切れ。

みさ子 人工島造らなくても県所有の休地が十分ある。桜島の土石流も十九年間の捨て場はある。年七十一億円の経済

主婦のわくわく井戸端会議

—— 環境編 ——

人工島市議会を傍聴

(メンバー)

小川みさ子(鹿児島市議会議員)
皮籠石久美子(共生ネットワークTekuTeku)
原口百合子(人工島を考える県民の会)
山口 祐子(共生ネットワークTekuTeku)

効果も希望的数字だった等々、建設委員会では問題点が次々に浮きぼりにされた。市議会の株が上がるとこだったのに。祐子 そうそう、小川さんがつくったグリーンコープの「周辺事態法ってなあ

に？」というチラシを見てピンときたんだけど、大型観光船の寄港とかヘリポート……。人工島って軍事目的に使うのかも……と空恐ろしくなってきたの。戦争協力が法制化されたんだもんね。

百合子 これだけ問題点が浮きぼりにされ、世論も盛り上がっているのになぜゴーサイン？ 最終本会議でも多数会派の九人全員が退席したね。どう考えても不可解なんだけど、大切な議案に賛否を表明せずに放棄しといて、苦渋の選択だなんて私たち市民をバカにしているわ。自分たちの損得のモノサシ？ 党利党略？ 市民不在？

祐子 それに、議決権放棄して無責任な上に、カッコつけて県への注文書を提案？ そんなのあり？ と聞いていたら、採決で小川さんがトコトコと一人退席。

みさ子 そうよ、私の場合は勇気をだして抗議の退席！ だって住民説明会とか環境アセスのやり直しという、自分たちが出した条件がのんでもらえなかったら

反対すべきじゃないの。

久美子 本当に。微細に渡って資料提出を求めている委員の態度が一変、問題点を指摘するにとどまり……とか、「六月定例議会会期延長後は、落としどころを探って迷走……」という記事読んで、水面下で何かあったな、と思ったわ。

みさ子 傍聴者が毎日いて下さって心強かった。結局知事は漁業補償について人工島全体計画六十七ヘクタール分を一括払いにしてほしい、という漁民からの再三の強い要請を受け、それに従った。でも漁業補償も工事費も県民の税金なのに、その県民の人工島NO!の再三の強い要請は、間接民主主義という手順をふんで無視したというわけだ。私たちはこの憤りをバネにこそすれ、諦めるわけにはイカナイ。住民投票、工事差止め裁判、今後の予算審議などなど、反対派がしっかりつながることで人工島建設は阻止できると信じます。

(月刊まちづくり8・6ニュース七月号より)

特集2 鹿児島港(中央港区)埋立計画の概要

～魅力あふれる南の拠点「かごしま」をめざして～

鹿児島県は、流通拠点港湾として、鹿児島島の発展に大きな役割を果たしています。当計画は、南に開かれているという本県の地理的特性や、これまでの海外との交流の実績などを踏まえ、魅力あふれる南の拠点「かごしま」にふさわしい施設整備を行うものです。

事業の目的

- 大型観光施設・娯楽と国際交流施設の形成
 - 大型観光施設、娯楽施設は、都市の発展を促す要因となり、「市民の民権」とともに、これらにより「国際交流促進の形成」を得た。
- 災害時における広域防災拠点の形成
 - 避難先として利用されるヘリポートを調査したところにより、災害発生時における緊急輸送の確保に必要とする広域防災拠点の形成の形が見られた。
- リサーチ・開発施設と高度化リサーチセンターの開発への対応
 - 高度化リサーチセンター設置への対応に必要となる、リサーチ・開発施設を調査した結果、生じた。
- 都市圏・広域圏土壌の受け入れ
 - 都市圏・広域圏から発生する土壌汚染土壌を調査した結果、



資料來源：根據《中國農業生產統計年報》整理。

ISSN 0013-788X/90/0005-0000\$01.00/0

姓名: 田村 幸太郎

099・226・5585

また止められます!

人工島は本当に今、必要ですか？

1.市民にもたらずメリットは？ 2.公共事業の見直し・自然との共存を！



人工島と

東京湾に広がる海を横切った人工の島を築き、7万トン級の大型船舶が航行できる規模の国際空港を、オアフ島、オアヒア島、ニホア島の3つの島を繋ぎ、1本の道路で結ぶ。『東京湾の未来』にふたふたの島を築き、東京湾の未来を築く。平成17年完成予定、1000メートルの長さの人工島の橋の上に設置する。



大分県

●人工島建設費用は約800～1,000億円。初し、民衆への例（約350億円）・中川川開工工事（約220億円）に、その費用は増えることが予想され、●ほとんどの島が大型船（37トン）に6年間で4隻入港しています。）が毎年で

トは？

●県の観光部が観光客の増加を目標に、早稲会・公報会などを通して、

圖例：●表示該處有黑熊分布

て、鹿児島県商工会が福岡商
会に行ってみてください。



「人工知能の発展に伴って、
我々の生活は、人工知能に大きく
変革される。その中で、我々の

●お買い得品

「人工知能」

小川 悪夢の中を生きているような、たいへんな時代になりましたよね。私たちが先日、東本願寺で強制連行を考える会に参加して、鹿児島県加世田市の旧陸軍万世飛行場建設工事に中国人三百四十二人の強制連行の事実を示す外務省文書の写しを、中国同人館（鹿児島市）が入手した当時（一九九三（平成五）年九月十八日）の報告をジャーナリストから受け、その後、出来上がったばかりの日中友好条約締結二十周年記念企画の「チンパオ」という映画を観たわけですが、こんな時代だからこそ一人でも多くの人に観てほしいですね。

周辺事態法（戦争協力法）、通信傍受法（盗聴法）、住民台帳基本法（国民総背番号法）、日の丸君が代法制化etc、悪法の乱立。歴史に学ばなかった日本は、これくらいいつたいていどうなってしまうのでしょうか。下野 いやあ、今、強制連行の資料を読みあさっているんだけど、世の中、確実に、戦前に戻っているみたいな不気味さ

主婦のわくわく井戸端会議 —— 平和編 ——

悪夢のような時代だからこそ

（メンバー）

浜田 啓子（指宿市で染色、織物と文庫活動）
皮籠石久美子（鹿児島市で女性政策の研究）
下野 民子（松元町で強制連行の歴史研究）
並加 真知子（川辺町で天然酵母パン工房）
小川 みさ子（鹿児島市議会議員）

がある。いつ戦争にまきこまれてもおかしくない。キナ臭い……。どうしてこんな時代になっちゃったんでしょうね。並加 だってこれほど景気が落ち込むと、世の多くの父親は企業組織の歯車と

なり、必死で働き、疲れきって、新ガイドライン・教科書問題なんて直接個人的には関係ないように見えるからパスする。それは主婦にもいえるけどね。下野 Jリーグフイバーなんてマスコ

ミまでいつしよになってるのよね。オウム騒動が下火になったら毒入りカレー事件だのサッチー事件だの、いつたいていなくなつてんだ。

浜田 だれがどうしたのこうしたの、という次元にはついていけないな。ちよつと真面目な主婦は、環境ホルモン、ダイオキシン、遺伝子組み替え、地球温暖化をなんとかしなきゃと、命の問題で一生懸命。その一方で、原発のプルサーマル計画、戦争協力法etc。怖いことがいつのまにか決まっていって、気がついたら、夫も子どもも戦争で死にました……。命を大切にする活動をしていたのに、すべてが、手遅れでした……。となりそうね。

知ろうとしない自分を、まず変えよう

小川 トリ肌がたってきたワ。私たちは男女共同参画社会をめざして、この数年行政の力添えもいただいていたがんばつてきたけれど、今の浜田さんのご指摘は、私

たち女性への警鐘よね。

よく世間じゃ右とか左とか色づけしたがるでしょ。私から見るとナンセンスだと思うのよ。私たち女性がエンパワメントするって、我が家の食卓から見えることでもいい、いえ、むしろその生活の目、生命を育む目線で、社会の仕組みとか構造を積極的に学ぶことにつながっていくのね。女性議員が今求められていることも、党利党略に走りすぎた議会に市民の生活の風を送り、市民にとって身近な場として、つくり変えて行くことだと自覚してます。

皮籠石 そのとおりだと思うわ。知らない、知らされない、知ろうとしない自分が、まず変わっていくこと！

学ぶということは自分の人生が充実することだと実感しています。出会いも沢山あって、忙しいけど楽しいってところかしら。情報公開法、環境アセスメント法、NPO法、もちろん男女平等法……と、わかりやすく学んで、娘や友人に伝えた

いことが山ほどあるわ!!

浜田 イヨッ前向き！ 元氣が出てきた。私も孫たちの顔を見てるとつくづく緑の環境とか平和を残してやりたいなアと思う今日この頃です。

下野 こんな時代だからこそ、過去の歴史に学ばなきゃいけない。事実から目をそらしたらイケナイ！

加世田市万世の強行連行のことや知覧の特攻基地のこと、地元の鹿児島でも学べる歴史はあるんだけど、戦争体験の風化どころか美談にされる傾向があるからね。

日中合作の「チンパオ」観ても思ったけど、「上官の命令は天皇の命令」という支配や権力の構造の中では、平等とか人権なんてないね、全く。人間らしい気持ちや優しい心をだすと命とりになる。戦場とはそんなところ。殺すのも殺されるのもイヤだといえないのが戦争だと子どもたちに教えないと、こりゃたいへんなことになるわ。

宮崎では、教科書から

「慰安婦・強制連行」削除を可決

並加 先の大戦の体験者であるおじいちゃんおばあちゃんがお元氣なうちに、記録しておく作業が急がれるわね。

下野 そうそう、なんてったって証言者だものね。なのに、侵略はなかったとか、従軍慰安婦は商行為だったなんて、いまだに聞くとバカヤロウといいたくなるよね。喉元すざれば熱さを忘れる者ばかりじゃない。「ナヌムの家」のハルモニたちとか勇気を出して証言している人たちに失礼だよ！ 多くの人の人生を台無しにした事実を歴史から消すなんて許せないわ。

小川 とにかく今、あきらめムードを塗りがえることが大切よね。私ね、昨日、侵略戦争の罪をテーマにしたお芝居「再会」の実行委員会で広島県教職員組合協議会編の『だれのための「日の丸・君が

代」？ そのウソと押しつけ」という新しい本を買ったんだけど、とてもわかりやすくまとめているわよ。ぜひ読んで！

浜田 たかが「日の丸・君が代」でないということを知りやすく伝えていかなきゃね。日の丸・君が代の果たした役割をね。そういえばお隣の宮崎県議会は、

「事実がないのに『従軍慰安婦・強制連行』が教科書に記されるのはケシカラン、極めて不適当だ」と記述削除を求める意見書を賛成多数で可決したというけど、ひどい話だね。国際人を育てるなら、中学校の社会科学歴史で事実を教えなきゃ後で恥かくよね。

並加 私も聞いてビックリして、全国では二番目と聞いて、小川さんや民ちゃんも調査してるんですよ。

皮籠石 確たる史実がないというのなら、政府の方できちっと調査をして下さいという意見書ならわかるけどね。

小川 そうなのよ。女性議員の質疑の途中で終結動議が提案され、県民不在の強

行採決がされたそうよ。韓国やアジアの人たちの痛みのわからない、人権のカケラもない、数の横暴に悲しくなるわ。

鹿児島市議会には、国立国会図書館法の一部改正にあたり、「歴史の事実を明らかに！全国キャンペーン」の県代表である布田牧師や足田京子さんたちが、「戦争被害の真相究明を国の責任で明らかにするための調査会を設置してほしい、という意見書を提出するように」という陳情を提出し、この六月議会で上程され、総務消防委員会に付託されたんですよ。審議が楽しみね。

皮籠石 傍聴に行きたいわ。

「平和」を冠せた時は、あやしい

下野 宮崎に親が強制連行されて、タコ部屋で生活してたという知人がいます。

何せ、宮崎の平和公園には「八紘一宇」と刻まれた平和の塔が立っているしね。

PKOが「平和貢献」とか、原発が核の

「平和利用」ってな具合に、平和がつくとあやしいですね。

浜田 「八紘一宇」って何を意味するの？
小川 日本書紀からとった世界支配、つまり日本民族の優越と他民族への抑圧・侵略を正当化する造語なんだそうですよ。世界侵略・蛮行のシンボルというわけです。

並加 その平和の塔に毎年十万人近くの修学旅行生がやってきて、平和のシンボルとしてまちがった歴史をバスガイドさんから教えられるんですよ。太平洋戦争に県民を動員する精神的支柱となった八紘一宇の塔、つまり侵略戦争を正当化する塔を、平和の象徴のように子どもたちが教わる……歴史をねじまげる教科書問題といっしょです。

皮籠石 そういえば、鹿児島島の修学旅行もそうだったらしく、一昨年、女性教師のグループでしたつけ、訴えに来られ、小川さんも一緒に記者会見しましたよね。

宮崎県議会の教科書の記述削除の件も、いくつもの女性たちの団体が抗議しているんです。

日本国憲法の草案づくりに携わり、男女平等の条項を盛り込むことに尽力された米国人女性のベアテ・シロタ・ゴードンさんが五月に来鹿され、「平和運動は女性性の義務」と話されましたよね。

小川 憲法九条は世界の平和のために必要で他国のモデルになるべきもので、いろいろな政治運動に参加して、自分の子どもたちの将来のため闘わなくてはならない。そして、心と心をつなぐ国際交流が平和のためには一番だ、と話されたのよね。

下野 私たちつてさ、グリーンコープという生協で、初めて国際交流の大切さが身にしみてわかったんだよね。フィリッピンのネグロス島のパナナやマスコパド糖を通しての『民衆交易』はすごいインパクトで世界に目を開かせてくれたよね。



自分の中のモヤモヤが明確になっていくわくわく井戸端会議
喫茶店「さくらひらひら」にて

小川 政府を介さない国際交流こそ大切よね。食・音楽・言葉・文化etcを通して、しかも民衆交易で自立の援助が可能となると、これこそ真の国際貢献よね。で、今、鹿児島で私たちは何をすればいいのかわかりませんが見えてきましたね。

浜田 ハーイ。まずあきらめないこと。皮籠石 今日とはとてもいい勉強になったので、また情報交換したいです。そして、私たちが情報を発信し、語りべになりましょうよ。

並加 平和を八月だけじゃなくて一年中考えること！

(ソウダ、ソウダ)

下野 女性のエンパワーメントした活力を昔の愛国婦人会とか国防婦人会のように戦争に利用されないよう、キ然とした態度を貫くこと。

小川 一人芝居『身世打鈴』の宋富子さんの言葉のように、「知らせるのは先に知った者の責任！」だもんね。

韓国・「ナムの家」への旅

—おもいつきりソウル二日間

疋田 京子

記録映画『ナムの家Ⅱ』については、もはや説明するまでもないだろう。鹿児島で上映会をしたのは昨年（一九八〇）の九月五日。映画の最後の「今度は観客がハルモニに近づいて行つて」というビヨン監督のメッセージ（一）をまともに受けとめて、今年二月二十三日、私たちは韓国のナムの家を訪ねた。一緒に行つた五人はいずれも上映会の実行委員で、大学生一人と主婦四人。『今すぐ話せる韓国語・入門編』片手のナムの家への旅は、その道中も、忘れられないほど刺激的なものだった。

（一）池田恵理子「幸運な恋愛関係映画『ナムの家Ⅱ』」『私たちの21世紀 No. 15』アジア女性資料センター

やっぱり、映画の力つてすごい！

上映会は大成功！やってよかった——そんな思いに背

中をおされたのかもしれない。とにかく「赤字になったとさきのこと」しか頭になくて、収益が多かつたこと、カンパまで集まつたことに、単純に「映画の力つてすごい！」と私は感動していた。

（映画を見た人たちの感想は、末尾の資料『ナムの家Ⅱ』アンケート分析』を、ご覧になってください）。

確かに、スクリーンの中に登場したハルモニ（おばあさん）たちはステキだった。現実の世界では、中学校の歴史教科書をめぐる動きや、国民基金がもたらした新たな苦痛、元慰安婦の訴えに事実認定すらしない裁判所と、次々に心がとんがっていくような出来事は続いていた。ところが、スクリーンに登場したハルモニたちの姿は、私たちの心を癒してくれるほど伸び伸びと個性的だった。

パク・トゥリさんとお酒が飲んでみたい！あの歌が聞いてみたい！キム・スンドクさんの大きなカボチャが獲れる

畑に立ってみたい!と、韓国に飛び立つ気持ちはストレー
トだった。

日程は二月二十二日から二十四日の三日間。「ナヌムの
家」を訪問したのは二日目の二十三日。その日は、広島高
裁で関釜裁判控訴審の公判があり、原告になっている朴頭
理(パク・トゥリ)さんと、ナヌムの家の院長のヘジン僧
は残念ながら不在。事前連絡でそれを聞いたときは日程変
更も考えた。しかし、メンバーそれぞれの多忙を考えると、
日程は動かせない。何はともあれ、大義は「ナヌムの家」
に上映会の収益金とカンパを届けること。それに、鹿児島
から週三便あるソウル行きの中で、帰国が水曜日の夕方と
いうのも捨てがたかった。この日程なら日本大使館前で毎
週行なわれている水曜集会にも参加できる。

「旅費も含めて送金したほうが、喜ぶんじゃないの?」
などと茶化す悪友の声を後に「おもいっきりソウル三日
間!」「旅行社のコピーさながらの旅が始まったのだった。

自力で「ナヌムの家」にたどりつくには……

「ナヌムの家」にたどり着くまでの道中は、「ヨボセヨ(す

みませんが)」「カヨ?(どこに行きますか?)」「オルマエヨ
(いくらですか?)」「カムサハムニダ(ありがとう)」の韓国
語だけがたより。それでも何とかなるはず、規則正しいハ
ングル文字が多少でも読めれば、(意味はわからなくても)
地下鉄には乗れる。この妙な自信で態度がでかかったのか、
韓国語で道を聞かれたときは、さすがに焦った。すかさず
「モルゲッソヨ(わかりません)!」。これも、ビギナーには
必須の韓国語だった。

さて、ソウル市内からバスを使って「ナヌムの家」へ行
くには、地下鉄二号線の江邊(カンピョン)駅のバスター



金浦空港の到着ロビーにあった米軍兵士宛の案内板。ターミナル・ビルのあちこちに同様の[US ARMY]の案内板がある。それにしてもPCSって何の略なの?

ミナルが出発点。ここから市外バスに乗ってポンチョン・サムゴリか退村面まで約一時間前後……と、ナムムの家から送ってもらった道案内にはある。

しかし、日本のように「次はポンチョン・サムゴリ」と運転手がアナウンスしてくれるわけでもなさそうなので、バスに乗ると不安になった。近くに座っていたやさしそうなおじいさんに「ポンチョン・サムゴリ カヨ?」(ポンチョン・サムゴリにいきますか?)と、バスの床を指差しながら聞いてみる。すると「このバスは高速を通るので、そのバス停を通りすぎてしまう」という返事らしいことが(なぜか)わかる。「運転手に、ポンチョン・サムゴリ近くで降ろしてくれと言いなさい」と言っているらしいこともわかるのだが、「降ろして!」という韓国語がわからない。それにバスの運転手は無愛想だった。焦っていると、おじいさんが「どこに行くのか」と苦笑しながら日本語でたずねてきた。日本軍「慰安婦」歴史館のパンフレットをそつと差し出すと「降りる場所はわたしが教えてあげる」という表情が返ってきた。その約束どおり、運転手に交渉して、高速を降りた所でバスを停めてくれた。まるで慈悲深い看守に釈放された捕虜みたいな気分で、私たちは「カムサハム



延世大学正門前。2月22日、この日はソウル市内の大学は卒業式。日本よりだいぶ早い。門の前には花屋さんも出ている。

ニダ」を大合唱して降りた。

そういえば、江邊駅のターミナルで、その高速バスに乗ることを教えてくれた（今となつては）ご親切なおばさんにも、私たちは「カムサハムニダ」を大合唱したっけ。「どこに行くの?」「ガイドなしで?」「えらいね」と日本語で話しかけてきた五十歳前後と思われるこの女性は、日本語を話したくてたまらないという感じだった。地下鉄の中で、妊娠中の若い女性に席を譲ろうとすると、「どこで降りますか?」と日本語で話しかけられたりもした。観光ガイドの資格を取るために勉強中だという彼女は、日本に留学した経験もあるという。「ガイドになったとき、また会えたらいいですね」と、爽やかな笑顔を残して降りていった彼女は、私たちの行き先を聞いたらどんな顔をするのだろう。韓国の人の笑顔に接すると、そんな思いにかられてしまう。マスコミが伝える「韓国人の反日感情」に、私はとらわれすぎているのだろうか……。

なにはともあれ、高速にのったおかげで予定より三十分も早くポンチョン・サムグリ付近（らしき所）に降り立ち、近くの雜貨屋のおばさんに、電話でタクシーを呼んでもらえないかと、手振り身ぶりで交渉。おばさんが部屋の奥に

入って行つたときは「通じた!」とガッツポーズ。でも、黄色い携帯電話を持つてきたもどつてきたときは、一瞬間が真っ白になった。でも韓国では携帯電話を持つている人をよく見かけた。

呼んでもらつたタクシーの運転手さんとの交渉も、もちろん手振り身ぶり。しかし、「本当は四人しか乗れないが、少し多めに料金をくれれば五人乗せてやる」と言つていゝるらしいことがなぜかわかる。この解説には、メンバーの長老の力が大きかった。さすが、人口圧できたえた団塊の世代はあなどれない!

タクシーが走り始めてしばらくして、運転手さんが「私は日本の国民学校を昭和十八年に卒業した」と、日本語で話し始めた。名札に書かれたハングル文字を、声を出して「キム・シー?（キムさんですか?）」と言つてみたら、話題を見つけたというように口を開いた。昭和七年生まれ。私の母と同じ歳だ。

タクシーの窓からは、川が凍つていたり、畑に霜が降りている風景が見える。「二月の韓国は北海道なみに寒い」と脅されて、南極探検隊のように着込んで行つた私たちは、手袋をはめていなくても平気なくらいのソウルの町に拍子

抜けしていた。部屋の中ではむしろ汗ばむくらい。韓国は小高い山が多い。とくに「ナヌムの家」がある退村面は山に囲まれていて、きつと朝夕の温度差が激しいのかも知れない。そういえばホテルのオンドル部屋の窓も、二重ガラスだった。ガラスとガラスの間に冷やしておいたジュースやおみやげの「軽羹（かるかん） まんじゅう」が、朝には凍っていたものね。

そんなとりとめのないことを話しているうちに、タクシーは「ナヌムの家」に近づいていた。畑の中にポツンと見え始めたコンクリートとブロックの建物。映画の中で見おぼえのある風景に、五人の中から「映画の世界にいたい」の声が思わずもれた。

退村面の「ナヌムの家」

周りは畑ばかりの真新しい「ナヌムの家」。敷地内にはハルモニたちが暮らす「生活館」と、昨年八月に開館したばかりの日本軍「慰安婦」歴史館。そしてハルモニたちが毎朝お祈りをする礼拝堂がある。建物に囲まれた広場には、中央に「手折られた花」と名付けられた少女の銅像。そし



カン・ドッキョンさんの慰霊碑。
奥がナヌムの家生活館。

て生活館の入り口にはカン・ドッキョンさんの慰霊碑があつて、「わたしはここにいます」と語りかけている。

そのほかにも屋外には、地底から今這い出てきたような迫力のある「だれがこの人たちに」というハルモニの半身像（次ページ）や、丸太でできた「傷の河」をイメージした彫刻が目にとまる。歴史館の中の展示もそうだが、とにかくセンスがいい。屋内・屋外ともに、多くの芸術家たちの気迫を感じる展示である。

そしてふと足元を見ると、何かペンキで落書きしたような石が一行に並んでいる。あとで案内をしてくれた千福景



イム・オクサン「だれがこの人たちを」

(チョン・ポッキョン)さんに聞くと、ここに来た美術大の学生が遊んでいったということだ。

院長のヘジン僧によると、ソウルを中心にあつたナムムの家からここに引越してくるとき、ハルモニたちの多くは引越しに反対したそう。こんな田舎に引きこもってしまったら「みんなが私たちのことを忘れてしまうのではないか」と恐れたからだ。

しかし、ハルモニたちに思いを寄せる人たちが、多くの若い人たちも、日々こうしてここを訪れている。その人たちの残す痕跡で、これからここは満たされて行くのだろう。

昨年の八月の歴史館の開館以降だけでも、ここを訪れた人は三千五百人を越え、その三〇%が日本人だという。

(2) 慧眞・著 徐勝／金京子・訳 『ナムムの家のハルモニたち』(人文書院)

ナムムの家「生活館」

さて、チョン・ポッキョンさんの案内で、いよいよ「生活館」へ。ハルモニたちとのご対面だ。連絡の行き違いで、私たちは突然の訪問客のようになっていて、昼前にナムムの家に着いたときは、大半のハルモニたちが病院に出かけていて留守。迎えてくれたハルモニたちより私たち訪問客の方が多くて、何か舞台裏の控室を訪ねたみたいな感じだった。日本人ボランティアの女性が不在だったのも不安を増幅させた。映画の世界と目の前の現実との間をうろろしながら、どんな顔で何を話せばいいんだっけ、と、戸惑ってしまった。

でも、とにかく、まずは持参したカンパの贈呈式。幹事の女性に収益金を渡す場面では、笑顔でシャッター・チャンスを作ってくれるところなどは、さすが「ナムムの家」

のハルモニたち。いつのまにか専属の通訳に変身したベ・
チョンヒさんは、連行された中国から戦後日本に渡り、八
〇年頃韓国に帰ってきたというハルモニだ。演歌が好きな
彼女の流暢な日本語に助けられ、北島三郎や森進一の話をし
ながら、昼食のラーメンをこちそうになった。その間も、
何人かの韓国人スタッフが入ってきて、昼食を食べるとま
た自然に仕事にもどっていく。多くのボランティアによっ
てここは運営されているのだ。

日本軍「慰安婦」歴史館

日本軍「慰安婦」歴史館については、昨年八月の開館以
来、設立の経緯も含め、展示内容についてすでにいくつか
の紹介が書かれている⁽³⁾。いずれも歴史館の開館に直接携
わった方や、美術史家によるものなので、それを参考にし
てもらい、ここでは、そこであまり紹介されていない部分
の写真と、その説明にとどめたいと思う。

私の下手なフィルターを通してしまうことに、どうしよ
うもないためらいがあるし、何より、あの場に自分の身を
置いてほしいと思うからだ。現在では、展示パネルの立派



収益金の贈呈式。まんなかかべ・チョンヒさん。

な日本語訳パンフレット(4)もできあがっている。

(3) 池田靖子「日本軍「慰安婦」歴史館の開館」『戦争責任研究 第二十二号』(一九九八年夏号・日本の戦争責任資料センター)。
庵途由香「歴史に残さなければ……」(Let's 第二十号)日本の戦争責任資料センター・ボランティア編集部)。千野香織「ミュージアム展示のジェンダー」(『現代思想vol.21』一九九九年一月)。
本田芳孝「ハルモニたちとの出会い―ナヌムの家を訪ねて」(『あいら246号』一九九九年一月)。

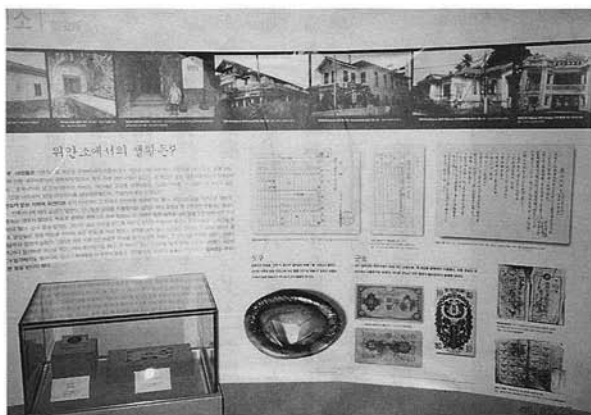
(4) 『日本軍「慰安婦」歴史館 展示パネル日本語訳』庵途由香訳、徐勝・坂本知壽子・吉岡マリ校正。



入り口のパネル。最初に「慰安婦」であったことを名乗り出た金学順さんの「私たちが強要に勝てずにしてしまった/このことを/歴史に残しておかなければならない」の言葉。



ハルモニたちが一番大切にしているもの。歴史館の入り口と出口をつなぐボーチの真中の足元に埋め込まれている。どんなエピソードがあるのか、次回は韓国語で聞いてみたい。



階段を降りた所にある第二展示場「体験の場」にあるアジア各地の「慰安所」の写真と説明パネル。手前には「サック（コンドーム）」と「軍票」の実物展示。この向かい側には「慰安所」が実物大で再現されている。



ある第一展示場から地下の第二展示場「体験の場」へ。作品展示のある「告発の場」（第四展示場）は2階。



第三展示場・作品「証言」。実名を公開したハルモニと公開していないハルモニの版画作品。金学順さんの証言の録音を聞くことができる。



第三展示場・記録の場にある「慰霊の場」。竹筒の燭台と香炉。作品「光の美しさ、生命の尊さ」（ユン・ソクナム）が、昇天する女性を追悼するように高く掲げられている。

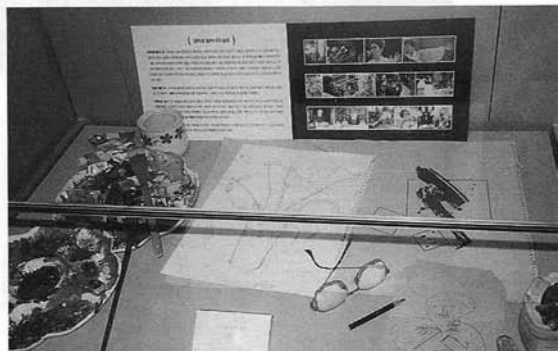
「記録の場」にある韓国の教科書と日本の教科書の展示。後ろのパネルには、教科書に関するこれまでの動き、日本政府要人の妄言録や国内外の運動関連資料がまとめられている。



指紋肖像作品姜徳景さんの肖像画。ハルモニたちの手形を壁に展示した「ハンド・プリンティング」に自分の手を重ねて出口来ると、この肖像画がプリントしてある葉書がある。歴史館来訪者の指紋で作ったもの。日本政府の賠償をもとめ、この葉書で指紋署名を集めている。まさに血判状。



「日本軍慰安婦歴史館」。右側が入り口、「映像室」の地下展示室を通り、左側の出口に出る。ハルモニの



第四展示場「告発の場」にある姜徳景さんの遺品。隣には、カンさんか息を引き取ったとき付けていた点滴などの医療器具をそのまま展示したケースがある。「生きた証をここにすべて残すのだ」という執念に、足がすくみそうだ。他に、日本ではなじみ深くなったハルモニの絵画が展示されている。

「ナナムの家」の日本人ボランティア

今回の訪問では会うことができなかったが、日本人ボランティアのこともふれておきたい。「日本語が話せる人が多い」「顔かたちは日本人と同じ」とは言っても、やっぱりここは外国。現地に日本人ボランティアがいるというのは、とても心強いものだ。

上映会の準備をしている頃、「ナナムの家」の日本人ボランティア・坂本知壽子さんとは何度かファクスのやりとりをした。「ナナムの家」の敷地内に開館した「日本軍慰安婦歴史館」のことを、上映会の参加者に伝えたかったからだ。歴史館の開館を新聞で知ったのは、上映会の直前だった。突然で、早急なお願いだったにもかかわらず、展示パネルの日本語訳パンフレットと、「ナナムの家に行くには」というとてもわかりやすい案内を郵送してくださった。そしてその郵送も、日本からの来訪者に委ねて日本に帰国して投函したおかげで早く届いたのだった。

帰国した後、日本の戦争責任資料センター・ボランティア編集部が発行している「Let's」(No. 22)という情報



私たちが歴史館を見終わった頃、ハルモニたちが病院から帰ってきた。カメラをかまえると、ポーズをとってくれた。

誌で、坂本さんの名前を見つけたのだが、その「韓国・新世代のさまよえる日本観」という論稿からは、借りものではない、自分なりの対象へのアプローチを手探りで見つけている誠実な人柄が伺えた。

新聞は、「日本が好きですか？」と問えば韓国人の過半数は「嫌い」と答えると伝える。なぜ嫌いなのか。その理由は歴史を振り返れば明らかだが、戦後五十年以上たった今、現在の若者・新世代はどう日本が嫌いなのか……、そんな疑問を解くために、彼女は九五年から定期的に韓国の学校を訪ね、若者調査をしているという。

新世代は、戦争を体験していないからこそ、良くも悪くもその想像力によって新たな日韓の関係を構築する可能性を持つ、と彼女は言う。精神的解放を得られないままこの世を去る当事者を見れば、彼らは日本への負の感情を強めるだろう。いずれにしても、日本政府の態度がキーポイントになる。そして、この研究を続ける理由を、彼女は「どうせ日本が謝っても韓国は許す気がないとタカをくくくる嫌韓感情の人々、戦争・戦後責任を棚上げにしている日本政府の態度へのささやかな抵抗」だと記している。

私たちが訪問する際に連絡を取り合い、訪問直前に帰国



映画のなかで見た、金順徳さん（キム・スンドク）さんとあのカボチャとのご対面。
この一枚を撮るためにここに来たような気持ちさえてきた。

したという川口恵子さんは、二代目の日本人ボランティア。留学生で、卒業論文に追われる多忙の中で、日本からの情報を整理し、連絡をとってくれていたということだった。

そして現在は、米倉万有美さんという新たな日本人ボランティアが常駐し、「米倉万有美さんの日記」というホームページ⁽⁵⁾で、ハルモニたちの日々の様子を日本に伝えてくれている。「たぶん二十四歳という彼女は、高校の頃韓国に渡り、今では日本人だといっても信じてもらえないらしい。最近開設された「ナヌムの家・日本軍慰安婦歴史館」のホームページのスタッフ紹介によると、「懐が深く、少々のことではこたえない」性格だそう。ナヌムの家を訪れると、こうした魅力的な日本人ボランティアにも出会える。

(5) ナヌムの家・日本軍慰安婦歴史館のホームページ・アドレス
<http://www.geocities.co.jp/Silk-Road-Ocean/3716/>
「米倉万有美さんの日記」にもリンクされています。

「日本軍『慰安婦』歴史館後援会」のホームページ・アドレス
<http://www.las.osaka-sandai.ac.jp/~funtak/Databox/Nanum/index.html>

第三百五十回目の水曜集會に参加

三日目は、十二時から日本大使館前で毎週行なわれる水曜集會に参加した。その日は、一九九二年一月八日の初回から数えて三百五十回目。この水曜集會は、阪神大震災の時に一回休んだほかは、一日も休んだことがないという。

日本大使館は景福宮から世宗路（セイジユロ）にむかつて左手のビル街の真中にある。五年前、初めてソウルに来た時には景福宮の前にそびえ建っていた国立博物館（旧朝鮮総督府）が、すでに跡形もなかった。

ちょうど昼休みの時間なのだろう、大使館前は昼食に出かけるビジネスマンであふれかえっていた。私たちが行った頃、中国に住む韓国人の元「慰安婦」のハルモニが一時帰国していて、大使館前で涙ながらにその体験を訴えていた。このハルモニの一時帰国は、ナヌムの家のハルモニたちがバザーをして得たお金で可能になったという。

台湾からも台北婦女救援基金の女性に参加し、彼女たちも日本の謝罪と補償を求めた活動をしていることをマイクで訴えた。

そういえば、日本軍「慰安婦」歴史館の設立に向けて、日本で発足した設立後援会の呼びかけ文のなかに、「国民基金」による被害者同士、支援グループに持ち込まれた分断に抗し、国境を越えた連帯をつくりだして行くこと、という趣旨が記されていた。

その趣旨どおり、韓国が、その連帯の中心になっていることを実感する集会だった。

*

ソウルの三日間——。私たちが泊まった梨泰院(イテウォン)のホテルのそばにあった駐韓米軍基地や、米軍施設と韓国軍施設を両脇にした通りを抜けたところにあった、日本の国会議事堂くらいもある驚くほど大きな「戦争記念館」、そしてナムムの家の帰りに行ったバゴタ公園と、その周辺にあった屋台のことなど、書き始めれば、この十倍くらいは書けそうだ。

「韓国が好きですか?」と聞かれても、私にはまだわからない。しかし、ビヨン監督のあの映画とハルモニたちによって、韓国がもつともっと知りたい国になったことは確かだ。
『ナムムの家II』をKAGOMMAで観る会



日本大使館前での水曜集会。高校生か大学生くらいの若い人たちがたくさん参加していた。

「ナヌムの家Ⅱ」アンケート分析・新作情報

アンケート回答者は十代から七十代まで幅広く、特に四十代、五十代の女性の回答者数が多い。一番回答者が多い四十代で男性回答者は一人というのも気になるところです。観客数の性別・年代別が調べられなかったことが悔やまれます。

(でも、性別はともかく、年代別はどうやって調べたらいいんでしょうね)

三十歳から五十歳の女性の感想から……

具体的に映画の中で感動したシーンとして、カン・ドッキョンさんの臨終に際し、「私の友の恨を解き放ってください」と神に祈るハルモニ(ユン・ドウリさん)の姿を挙げる人が複数いることが印象的。ハルモニたちの姿に救われた、強さやたくましさに感動、などの感想が多い。

その一方で、「慰安婦の方たちの恨と涙

の上にのんきに生きています。ごめんなさい」「恨を解き放つために、何が私たちにできるだろうか」と自らの現在に立ち返り、「この事実を、戦争を体験していない次の世代に伝えなければ」と、自らの責任を問い始めている。

戦争を体験した六十代以上になると……

ハルモニたちへの労いの言葉や日本政府に対する怒りを率直に表明する男性が多く、それとは対照的に、女性はハルモニたちについて語る言葉を失っているようにも見える。「日本政府の心からの反省で、少しでも恨が癒されるのに」と、日本政府の謝罪の必要性に触れつつも、その言葉の中にはある種の諦念のようなものが感じられ、「ハルモニたちの残された人生が穏やかでありますように」と

祈る言葉が多かったのも印象的。

十代〜二十代は……

中には、ハルモニたちの日本に対する敵対感情に戸惑いを覚えている人もいるが、「戦後五十年たっても苦しんでいる人がいることを初めて知った」「自分の無知をはずかしく思った」と、事実を率直に受けとめ、自らの経験を語り始めたハルモニに感動、日常生活を前向きに生きようとする姿に勇気づけられたという感想が多数。

アンケート全体では……

対象であるハルモニたちと適度な距離を残し、ハルモニたちの日常を淡々とドキュメントするジョン監督の撮影態度に、*「つくりモノ」*ではない事実の重みを

感じた人や、その映画をつくったのが、とても若い監督であることに感動した人、そして、ハルモニたちが自活しはじめたことや、ハルモニたちの現在の生活に「ほっとした」という感想をもつ人が、性別・世代に関係なく多数いた。

ただ、「前作も見なかった」「日本軍慰安婦についてもっと知りたい」という意見などが多く、日本政府への告発と恨がまさに中心となっていた前作とのつながりを欠くために、「ハルモニたちに当時の体験をもっと語ってほしかった」「もっとインパクトがあってもよかったのでは」と、映画に物足りなさを感じる人たちもいた。

待望の三作目は「MY Own Breathing」

歴史館の開館祝賀会にも、ビヨン監督が来て撮影をしていたそうですが、待望の第三作目の題名は「MY Own Breathing」

(わたし自身の息づかい)。

予告の文章によると……今回の映画は、ナムムの家を離れ、元「慰安婦」であることを公表したハルモニのなかでも、今は一人暮らしをしていたり、家族と暮らしている人たちを追っている……とのこと。

おきまりのQ&Aインタビューでなくて、ハルモニがハルモニにインタビューしたりなど、新たなスタイルをとっており、これまでの二作(英語のタイトルは、The Mummuring/Habitual Sadness)に続き、また新たなハルモニの姿に出会えそうです。

◆MY Own Breathingのサポーターになりたい時の連絡先は

docu-factory VISTA Kogaeum B/D
4F. 1535-9, Seocho-gu, Seoul 137-073
Korea

TEL:82-2-597-5364 FAX:82-2-597-5365



「戦争記念館」。護国追慕室や国軍発展室、海外派兵室など、日本では「禁句」の展示室が並ぶ。屋外にも兵士が抱き合っている「兄弟像」や武器、戦艦戦機の展示がある。

金景錫さんに日本鋼管が賠償

七月三十日、東本願寺で行なわれた「強制連行を考える会」で、韓国在住の金景錫さんから「強制連行訴訟」の和解が報告されました。金さんは第二次大戦中に日本に強制連行され、就労先の日本鋼管（NKK）や川崎製鉄所で暴行を受けたなどとして、一千万円の損害賠償と謝罪を求めて一九九一年に東京地裁に提訴。

今年六月六日、被告の日本鋼管が四百十万円を支払うことで和解が成立。戦後補償関連の訴訟で、被告企業が本人に賠償金を支払うのは、これが初めてです。

それにしても、戦後補償の問題が、敗戦後五十四年間何ら解決されたとは言えないのに、この八月四日、新ガイドライン関連法成立などを受けて、初の日韓共同訓練が東シナ海で実施されました。この訓練は、日韓の軍事面における連携強化にほかならず、「いつかきた道」への第一歩であることを、私たちは見過ごしてはならないと思います。（小川みさ子）

南の風を運ぶーがごしまの女の本

新版シマヌジュウリ
奄美の食べものと料理法

藤井つゆ著

藤井つゆさん（八十二歳）が、百六十種類もの奄美の食べものと料理法を、年中行事や島の暮らしを紹介しながらわかりやすく伝えていきます。奄美の女性や暮らし、食文化を知る資料としても重宝。

B12裁 一三八ページ
四八〇〇円

◆発行元は南方新社
TEL09692246036



鹿児島島の女性作家たち
相星雅子監修

鹿児島在住の出水沢藍子、入来院貞子、小澤聖子、末永逸、田ノ上淑子、鳥集モモ子、相星雅子の女性作家七人が、折々に同人雑誌等に発表してきた文学作品をまとめ、バラエティに富んだ単行本に。

B6判 三八六ページ
一八〇〇円

◆発行元は高城書房
TEL09692600554



女ひとり
地方議会に春一番
ー新入り議員の涙と笑

小川みさ子著

九六年四月、鹿児島市議会に乗り込んだみさ子さん。たった一人、無所属・無党派の航海は波乱の嵐。市民運動をしている人、世間の動きに警戒心を抱いている人の教科書になる一冊。

四六判 三三〇ページ
一八〇〇円

◆発行元はBOC出版部
TEL03333543941



延長国会は無法地帯——憲法を次々に可決

8月13日、延長国会は幕を閉じたが、「自自公」の結託の下で憲法が次々に可決されるという最悪の展開になった。数の暴力で押し切るといふ、まさに無法地帯。「戦前以上のひどさ」という声もあちこちに――。

5月24日「周辺事態法」、7月8日「地方分権一括法案」成立に続き、7月29日には「憲法調査会設置法」が参議院で衆参両院に設置できるように法案を修正した上で、衆議院本会議で可決、成立（民主党も賛成）。

最後の一週間、8月9日には国旗・国家法案が、わずか二十八時間の審議で可決。民主党は賛成二十人、反対三十人と分かれた。翌10日に野中官房長官は早速「日の丸」掲揚と国の主催行事での「君が代」斉唱を国家機関・各省庁・各自治体に指示。学校現場での教職員への強制も一層公然と行なわれるとみられ、「思想・良心・信教の自由」に

土足で踏み込む「違憲」とする声が高まっている。

同日、参議院法務委員会では「組織的犯罪対策三法案（盗聴法含む）」が「強行採決」されたとマスコミでは報道されたが、速記録によると「採決」は全くない。円より子議員（民主）の質疑に荒木清寛委員長（公明）が答弁中、鈴木正孝議員（自民）がさえぎつて動議を提出、それが何か誰も聞き取れないまま委員長が「挙手」と発言。採決の際に可否の結果を宣告する必要があるにもかかわらず、一切なく、審議終息の採決。三法案それぞれの採決も全くないまま、参議院本会議に回され、野党が「牛歩」戦術などで抵抗した徹夜審議の末、12日午後可決された。

その直後、参議院議員会館で抗議集会が開かれ、野党議員が怒りの記者会見を行なったが、同日夜、「住民基本台帳法改正案」も「緊急を要する案件は本会議で審議できる（国会法五六条三）」に基づいて参議院地方行政・警察委員会の採択を省略するという、二十四年ぶりの異例の方法で本会議に提出、可決された。小川峰男委員長が民主党であるこ

とから、委員会採決を無理と判断した自民党が自公の数

で押し切った形で、小川委員長は委員会無視のやり方に強く抗議した。自公は三年以内に「包括的個人情報保護法（仮称）」を制定するとしているが、国民総背番号制につながる恐れの強い住基法改正案を無理やり成立させた自公のもとで、「個人のプライバシー」が守られるだろうか。

まるで白昼強盗のように、人権侵害の悪法の数々は国会で成立させられてしまったが、聞いはこれから。「小選挙区制を逆手にとつて逆転する方法」など、市民の間でもさっそく検討が始まった。有馬文相は「結果は次の選挙で示されるだろう」と語ったが、これほどの無法状態を黙視できないという憤りの火は小異を超えて結果に向かっている。

悪法審議の実態をインターネットで見よう

バタバタと可決された悪法。マスメディアはその詳細を伝えないが、たとえば「盗聴法」に関しては、市民運動のためのプロバイダー（JCA-NET）のホームページ「ネットワーク反監視プロジェクト」で詳細を見ることができ。動議、採決が行われたとされる参議院法務委員会最後の

場面の公式速記録は次のとおりである。

● 円より子君 理事会を開いていただくということの確約がありましたら、私、これから質問したいと思います。（発言する者多し）

● 委員長（荒木清寛君） 円理事に申し上げます。質疑をお続けください。（答えは）と叫ぶ者あり）

先ほど申し上げましたように、理事会で協議をしますということとは申し上げましたが、それは今やるべきことではございませんから、質疑を続けてください。

——質疑をお続けください。

● 円より子君 今、理事会を開くとおっしゃいましたよね。協議をするとおっしゃいましたね。いつそれはなさいますか。

● 鈴木正孝君 委員長……

● 委員長（荒木清寛君） 後刻、後刻……（議場騒然、聴取不能）

鈴木君提出の動議に賛成の方の挙手をお願いします。（議場騒然、聴取不能）

〔委員長退席〕 午後八時五十五分 以上

*

動議の採決には、

・動議提案に対する採決

・その後動議の内容についての採決

が最低限必要だが。この速記録では動議の提案すら明らかではないことがわかる。

会議の詳細については、参議院のインターネット中継(RealPlayerというソフトが必要)にも接続可能。そのほかにも、今までの国会審議の流れ、各団体の抗議声明など、重要な情報をまとめて見ることができる。

◆JCA-NETの連絡先は

TEL 03・3291・2875 FAX 2876

ホームページ <http://www.jca.apc.org/>

二〇〇〇年——原発と核兵器が危険！

最近マスコミを賑わしているコンピュータ二〇〇〇年問題(Y2K=Year 2000 Kiro)。銀行預金引き出せなくなる、交通機関が麻痺するなどの危険性に対する対策については報道されているが、実は非常に危険なのは核兵器と原発の誤作動による事故ではないかと心配されている。

核兵器はすべてコンピュータで制御されており、アメリカ・ロシアの二か国だけでも広島型原爆の五十万発以上に相当する核弾頭を所有している。また、現在世界には三十四か国に四百三十三基の原発があり、これももちろんコンピュータ制御。うち五十二基が日本にある。二〇〇〇年一月一日、原発保有国の中で最初に日付変更線を越えるのは日本で、その対応策は全世界から注目されている。

8月6日のヒロシマデーを皮切りに、〈Y2K WASH〉(World Atomic Safety Holiday)キャンペーン「原発と核にお正月休みを！」が、脱原発市民団体の呼びかけで始まった。年末の12月1日から原発の一時停止を求め、核弾頭を取り外すよう要請する署名を世界的に行なう。

9月21日にはベルリンでG8(先進八か国蔵相・中央銀行総裁会議)が開催され、日本はエネルギー分野の議長国となるため、〈Y2K WASH〉は9月10日に署名の一次集約を行なうと同時に、〈Y2K市民サミット〉を開いて原発の一時停止を呼びかける。

◆お問い合わせは

Y2K WASH事務局 03・5345・5618

鹿児島は小川みさ子さん 099・265・3787

東京都が「男女平等参画基本条例」を来年提案

東京都の諮問機関「東京都女性問題協議会」は8月11日、「男女平等参画基本条例（仮称）」に関して条例化すべき内容をまとめた報告書を石原慎太郎都知事に提出した。

その内容は、6月に制定された国の「男女共同参画社会基本法」より踏み込んだ面が多くみられ、例えば都が企業・団体などに対して女性の参画状況について報告を求めることや、セクハラやドメスティック・バイオレンス禁止などが盛り込まれているが、加害者に対する罰則条項はない。

東京都は報告書に沿って条例案を策定し、来年2月の都議会に提案の予定。都の条例の内容は他自治体から参考にされるだけに、一般からの声も吸い上げてより良い条例にしてみたいもの。

女性の立候補者に資金提供

アメリカのエミリーズ・リストの日本版として、WIN（発起人・赤松良子、下村満子ほか）が発足、活動

を始めた。

エミリーズ・リストは「民主党に良質の女性議員を増やす」ことを目標に、「絶対勝てる見込みのある人」を支援する組織。今までに上院議員六名、下院議員四十二名、知事三名を誕生させている。日本版も「必ず勝つ」ことを目標に、名称を〈WINWIN〉としたが、政党は特定せず、運営推薦委員会が、候補者の中から厳選する。

被推薦者は、最初は国会議員（衆参）と、各市長（知事、市長、町長、区長など）だけの予定だったが、地方議員も含めることになった。一人あたり最低三百万円は贈って「必ず成功させよう」という意気込み。

運営推薦委員名は、発表すると圧力がかかる心配があるため、エミリーズリスト同様、公表しないが、選考は公正・慎重に、と約束されている。

秋山ちえ子、森英恵、石井幹子など、今まであまり政治的なことに名前が出なかった有名人もスラリ名を連れ、数百万円の大口カンパもあったとのこと。「よい候補者」を支援したい方は〈WINWIN事務局〉の渡辺邦子さん（FAX 042・737・7307）にお申し込みを。年会費一万円を送り、さらに推薦候補者が発表された時点で、最

低一万元以上を贈ること（推薦したい人がいない時はゼロでも可）が、会員の条件。

第一回「白井博子・地の塩賞」募集開始

一昨年、惜しまれて逝った〈あごろ〉会員の白井博子さんを記念し、女性のために「地の塩」の働きをした活動家（原則として女性）に贈る新しい賞の受賞者を公募中です。継続した賞にするため、賞金の額はわずかですが、心からのエールを送り、サポートしたいというのが趣旨。

〔応募方法〕①〈地の塩賞〉に推薦する方のお名前（個人またはグループ）②推薦人のご氏名 ③推薦理由（二千字以内）をご記入の上、ハガキ・封書・FAX・Eメールのいずれかで応募ください。

◆なお、賞の趣旨に賛同し、出資する方も募集中です。出資金は一口千円（何口でも可）。

〔締切〕9月20日（消印有効）

〔発表〕10月11日（予定）

〔贈呈金と記念品〕金十万円とフェミニストの色紙

〔宛先〕〒160-0022

東京都新宿区新宿1-9-4-303 あごろ事務局気付
〈白井博子・地の塩賞〉推進委員会

TEL 03・3354・3941

FAX 03・3354・9014

Eメール XLV05467@niftyserve.ne.jp（京藤）

第十九回山川菊栄賞 募集

一九九九年度「山川菊栄記念 婦人問題研究奨励金贈呈者」の公募が開始。昨年8月から今年7月までに出版または発表された女性（問題）に関する研究論文・調査等で優れた業績をあげた個人・グループ（女性）が対象です。

〔応募方法〕ハガキに著者名、著作名、出版社及び発表機関名、著者の住所・電話番号、推薦理由を記入。

〔締切〕8月25日

〔発表〕11月末（予定）

〔贈呈金〕二十万円

〔宛先〕〒251-0032 藤沢市片瀬360-10

B-307 山川菊栄記念会事務局

TEL/FAX 0466・26・6135



海上自衛隊の大阪湾大演習に反対する集会

7月15日〜18日に、「シーページエント99イン・ナニワ」と称する海上自衛隊の展示・大演習が大阪湾で行なわれた。イージス艦や掃海艇、潜水艦など二十五隻と飛行艇や対潜哨戒機など二十一機が参加し、艦隊を組んでの一斉行動や魚雷の掃海、空砲の射撃などを市民に公開しました。また、市民を艦艇に乗せ、艦隊が一行に航行するのを見学する体験もしたそうです。

自衛隊が「広く一般市民に海上自衛隊を理解していただく」「海上自衛隊の大阪湾、紀伊水道へのコミットメントを示す」ことなどを目的としているように、この演習は戦争へ労働者・市民を動員していくための準備なのです。

私たちは7月15日に、労働組合や市民団体が主催する抗議集会に参加しました。集会の中で港湾労働組合の人が、「大阪湾で、今回の前にこのような演習があったのは昭和

四十年。まさに戦争前夜だった。そして今また、演習が行なわれようとしている」と発言しておられました。

ガイドライン関連法の成立以降、矢継ぎ早にかけられる戦争態勢づくりに背筋の寒くなる思いがしていましたが、それを聞いて、本当に戦争がそこまで来ていることを実感しました。

集会には約二千人が参加していましたが、「大労組」といわれる労働組合は少なく、反対運動の関心の低さと、演習にかり出されていっている市民の無自覚さが、この動きを支えているのだと怒りがこみ上げてきました。この現実には負けないで、職場から・地域から反対の声をあげていきましょう。

(大阪〈星砂の会〉会員)

〈日本婦人会議〉九州ブロック交流会

7月10、11日、鹿児島県片前の県自治会館にて開催されたので、鹿児島県本部（議長・蓮尾悦子 事務局長・道免明美）のメンバーも多数参加。たいへんな時代に何とか足腰のつよい運動を築いていこう！ 連帯の輪を広げていこう！ と、充実した交流の場になりました。

《日本婦人会議》に入会したきつかけの一つは、地元で今日の女性の人權、女性問題をつちかつてきた方や、平和運動を貫いて来られた先駆者である女性たちにお会いできることです。道をつくつてこられた方も、今日知った者も、共にめざす社会づくりに向かつていく。一つのグループや組織内でも大切にしよう關係を広げ、絆を深めていきたいです。ちなみに、鹿児島県本部事務局長である道免さん（あごらメイ）です。（小川みさ子）

第六回市民オンブズマン神奈川大会

7月31日（8月1日）にかけて、横浜市教育会館で「第六回市民オンブズマン神奈川大会」が開催された。

テーマは「こんなにあるじゃん、税金の無駄遣い」。情報公開の資料に基づいて、住民の納めた税金が適正に使われているのかどうか、報告を聞いた。全体会では土地開発公社保有地の塩漬け度・議会の透明度・情報公開度のランキング、各地の裁判・訴訟・判決や、議会の「海外視察」の実態についての報告などがあり、十の分科会に分かれて報告・討論がなされた。

九八年度の都道府県の不足税収は約二兆三千億円の見込みで、これは地方税収の危機といわれている。この財政の危機を招いたのは野放図に公共事業を進めるシステムにあるのではないかと、ムダな公共事業に焦点が当てられた。例えば、①自治体やその分身である土地開発公社（調査対象：都道府県と政令市・県庁所在都市の九十三公社）のもつ土地保有総額は四兆七千億円。その内三割は五年を超す長期保有地であり、巨額の含み損が発生している。②生活排水処理整備計画は、その工事計画を合併浄化式とするならば総予算の五分の一ですむ。③神戸や福島の空港の非合理性・不採算性を無視した計画。④談合の価格支配は価格競争より二割もその価格がアップするなど、税金のムダ遣いが情報公開のなかで明らかにされた。大型公共事業は、住民の意志や便意とは無縁に強行されその負担は住民が負うということになる。大会の宣言では、国へは財務状況の国民への提示、国・自治体に対しては①公共事業の見直しと中止②情報公開の実施機関の法制度上の前倒の措置を求めている。そして「住民の沈黙は行政の承認」となり、行政の不正の温床となる。ゆえに行政情報の公表・公開を求めていくことは住民の政策決定への参加となる、とし、広

く市民との連帯を広げながら監視と参加を強める、とあった。また、地域でのネットワーク化などを求め「情報公開市民センター」の構想についての提案もなされた。

情報公開は市民としての知る権利であり、情報公開から見えてくるものは市民としての行政への参画である。参加者の中から「本来税金が正しく使われているかどうかを監視するのは国や国会議員の役目である。そこが仕事をしないから、オンブズマンが必要となってきた。相手は為政者である。私たちは情報公開で何を要求するのかを明確にする必要がある」との発言があった。

(か)

埼玉県駆け込みシエルターを立ち上げて

国立婦人教育会館で行なわれた女性学・ジェンダー研究フォーラム（8月6日～8日）のワークショップ「埼玉県駆け込みシエルターを立ち上げて」に参加した。現在全国で民間シエルターは二十か所以上あるといわれている。

女性に対する暴力（ドメスティック・バイオレンスⅡDV）が社会問題とされつつあるが、「それが暴力である」という認識が女性の側にも男性の側にもまだ不足している状

況ではないかと思われる。この暴力（ここでは、夫または恋人）の定義がややっこしいところである。この暴力の範囲が肉体的・精神的・社会的・経済的にわたる。「愛情表現」「暴力と思う方がおかしい」「嫌がついているように見えない」など、ジェンダーの視点が抜け落ちると、この「暴力」が成り立たなくなることすらある。「愛情表現」「嫌がついているように見えない」というのは「支配しようとしている者の」「倫理でしかない。そんな、痛い表現はいらない（熨斗を付けて返して上げる）。また、暴力を振るう側だけの問題でもなく、暴力を受ける側の問題もあるという人もいる。いわゆる「支配されることを義務と思う者」の依存の問題である。しかし、あくまでも「暴力」は「支配」であり、女性への人権の否定であることは事実である。

昨年立ち上げた彼女たちのシエルターへの相談件数は徐々に増えつつあり、行政から回されてくるケースが増えているという。去る6月13～14日に新潟で開かれた「全国シエルター会議」でも同じことが言われており、特に難しいケースが多いという。これは行政が女性への暴力に対しての支援をどこまで考えているのか問われる発言である。

慢性的人手・資金不足の中で、それでも活動を続けよう

とする彼女たちを支えているのは、彼女たちを頼って逃げてくる女性がいることと、ネットワークではないだろうか。「暴力から逃げるといふアクションを起こすこと」が、問題解決になる。シエルターを起こすというアクションが問題を解決していく。あらためてアクションを起こすことの意味を教えられた。

このDV防止へ向けての法案作りを、という声もあがっている。川野紀代美代表は「今ある法律をある程度利用することもできるし、また法案を安易に作ることに異議を唱える人もいる。何が一番いい方法かを一緒に考えていきたい」と参加者に提起した。そういえば「新ガイドライン」「盗聴法」など新しい暴力肯定法案が続々と作られている。しかし本当に必要なのは暴力を否定する法案「DV禁止法」ではないか、それ以上に暴力を許さない社会をつくることではないかと思った。

(せ)

トークライブ「この国をかえたい！」

「周辺事態法」、「日の丸・君が代」法制化、組織的犯罪対策法(盗聴法含む)、地方分権一括法、憲法調査会設置法、

住民基本台帳法改悪……「自自公」によって今期国会で通った悪法の数々。安保と沖縄の問題を中心に活動してきたへわたしたちにとつて安保とはなにか? 実行委員会は、7月17日(土)に早稲田の日本キリスト教会館でトークライブ「この国をかえたい!」を開催し、こんな国になつてしまった日本を何とかしたい! と話し合った。

メインスピーカーは毎日新聞編集委員の中村啓三さん。中国・台湾関係などアジア情勢に対するアメリカの新戦略とガイドライン関連法案をからめて分析。そのガイドライン法案を通すためにつくられた「自自公」連立は、逆に言えば保守政権の危機感の表れ……と解説した。

そのほか、「日の丸・君が代法制化」で北村小夜さん(元教師)、「軍事基地のある街から」で加藤克子さん(立川市民)、「地方分権一括法案と周辺事態法」で井上澄夫さん(ジャーナリスト)、「憲法調査会法」で高田健さん(許すな!憲法改悪 市民連絡会)、「盗聴法」で池田荘児さん(JCANE)が運動側の立場で報告した。

集会時点では通つてなかった悪法もすべて通されてしまったが、「この国をかえたい!」の気持ちを持ち続けることは、今後ますます大切になってきたと痛切に思う。(れ)

いかと考えてしまった。

実はこの時、三橋順子氏とのやりとりの一場面を思い出していた。三橋氏の講演の際、「奥さんはそのこと（女装）にどんな受け止め方をされているのですか」との質問が飛び出したとき、「妻はおそらく知りません。もしかすると気づいていて、知らないふりをしているのかもしれませんが。女性用の着物や化粧道具・イヤリングの類は隠してはいるのですが……」と、正直な私生活の一コマを披露された。そんなプライバシーに関することを質問して、と一瞬ドキッとしたのだが、知りたいことはだれも同じかとうなずき、返答の素直さで軟着陸できてホッとしたりもした。

質疑応答のあと、個人的に話をさせてもらったのだが、本当に聞きたいことはやはり飲み込んでしまった。歴史に関する質問やジェンダー・セクシュアリティに関する疑問がいっぱいあって、そこまで手が回らなかったのである。ミーハーで恐縮ながら、私が知りたかった本音は、私のようにパーマも化粧も嫌いで飾り立てるのもいや、シンプルに生きたいという女は、彼にとってはどういう扱い、評価を受けるのだろうか？ ということだった。それを聞く代わりに「わざわざ、手間暇、お金までかけて二流市民に化けることもなかりうに、なんて揶揄されませんか？」とお聞きしてみた。「それはよく言われます」とのお答えだったが、私の質問したい意図は、私にもある（おそらくは誰にもあるだろう）、自分の性とは違う性の部分が、社会常識の枠内に収まる、収まらないの境界線、ないしはターニング・ポイントってどの辺りにあるのだろう、という疑問だった。

あると思えばある、ないと思えばない。そんな蜚語楼を見るような実感がない自分と、無理に押さえ込めば暴発するかもと感じる三橋さんとの落差を解きたかった。好奇心のあるなし、感受性の強弱、勇気のあるなし、悩む力や物事を掘り下げて理解する能力が大きい小さいかの違いでしかないような気もする。

以前、TIMEの特集で「ゲイやホモの男性は脳のある部分が先天的に違うかも？」との医学的な専門研究がすすんでいる、との報告を目にしたが、基本的には変わらないのでは、と私は思う。そもそも、女・男の概念も、言ってみれば神話に過ぎない部分が多い。ジェンダーの視点で見れば社会常識も大きく変わる。歴史の中ではもっと大きく揺らいできた。魂の自由を手に入れた人と、手に入れない人との違いだけかもしれない。

Transvestite III

(トランス・ベスタイトⅢ)

奥川 睦

逆セクハラという言葉が聞かれるようになったころ、「ついに映画にもなりました」の宣伝文句に引かれ、『ディスクロージャー』を見にいった。おめあては勿論、逆セクハラという言葉がこの耳でキャッチしようとの魂胆。セクシュアル・ハラスメントはだれもが知っている言葉になってきた。が、逆セクハラはどう表現するのだろう、と興味が湧いたわけだ。

デミ・ムーア扮する新任の上司（もと妻？）に誘惑されそうになり、やっと踏みとどまるマイケル・ダグラスという布陣だが、この映画はもともと、ハイテクを駆使した産業スパイ合戦。セクハラや逆セクハラは、話のきっかけに過ぎなかった。

だから、と言うわけでもなかろうが、“He harassed her”がセクハラで“*She harassed him*”が逆セクハラという、こんな台詞で片づけられていた。簡単すぎて「なるほど」と感心はしたものの、やはり、はぐらかされたような気もした。英語と日本語の谷間に落ちてあえがないためには、こういう時にシンプルな処理をする発想が大切だ。水平思考と言ってもいい。“*I like to dress women's clothe*”も字幕は直訳ではなく、前回述べたごとく「僕には女装趣味がある」だった。

彼（エド・ウッド）の場合、女優の代わりを自分でやり、低コストに貢献するという実用にも供している。一緒に暮らす女優の恋人に見とがめられ「なんでそんな格好をするの」と難詰（？）されて、“*This makes me comfortable*”（こうすると落ち着くんのだ）と、言い訳する場面があり、“*I have never told to anybody*”（今まで秘密にしてたんだけど）と付け加える。「将来、お金がたまったら手術をして女になるのだ」という友達がいるが、彼のセリフも“*I wish I changed my sex in future*”だった。中卒程度の英語が原則だという映画では表題のような長い言葉は使わないのかな、と思っていると、後半になって使われていた。エドがやっとまた、新しい映画に取りかかれそうになって張り切るところで、「エキストラが要るんだ、集めてこい」とスタッフに声をかける。“*I need transvestite*”（オカマが要るんだ）の字幕に、もうすこしましな訳語は見当らな

「男社会」って「なあなあ社会」？

松下佳世

(朝日新聞鹿児島支局)

東京生まれ東京育ちの私が南国・鹿児島に赴任して二年半。桜島の灰や連夜の焼酎攻勢にはすっかり慣れたが、男だらけのブンヤ暮らしには戸惑うことがまだ多い。

朝日新聞の記者は全国から採用され、四本社（東京、大阪、西部、名古屋）と一支社（北海道）に分けられる。編集局に入る新人記者の数は毎年七十人前後。記者の場合、出身地に残るものは稀れて（一部「地方記者」と呼ばれる特定地域限定記者はいる）、大抵は縁もゆかりもない地方都市に配属になる。私の所属している西部本社の記者数は三百九十二人（今年四月一日現在）で全体の約一五％。女性はずか三十人だ。西武本社管内の地方支局に赴任する女性記者は、たいてい職場で唯一の女性（事務員を除く）ということになる。女同士の変なライバル意識がなくて気楽な反面、男と女の考え方の違いに悩まされることも多い。

会社に入って悩まされていることの一つに「公私混同」がある。仕事が終われば支局員同士でご飯を食べに行き、休みの日でも会社顔を出す。休日は五、六人で一緒に釣りに行き、支局に戻ってきて酒盛り。私自身、せっかくの休日に上司や先輩記者に呼び出され、スナックにつれて行かれたこともあった。ただ仲良くしているだけなら「ほかに友達をつくる余裕もないんだろう」と割り切ることもできるが、仕事も個人的なつきあいの延長線上のように考えているから腹がたつ。

たとえばある記者が予定していた取材に急に行けなくなつた。彼はデスクに相談せず直接私の携帯に電話をかけてきて、いきなり「今日ひま？」ときいた。「仕事中にひまなやつなんかいるのか」と思いつつ「何ですか？」と尋ねると、「いやーひまだつたら一つネタをあげようかと思って」とくる。続けて「他紙に載っているのをまねしてちょちょっと書けばいいから。夏枯れ（お盆休みなどでニュースにな

る出来事が減ること」でネタに困ってるでしょう?」の一言。「ゝがあつてどうしても行けないから取材を代わってほしい」と理由を説明すればいいものを、あくまでもなあなあですまそうとする。しかも取材に行けない理由が単なる個人的な都合だったりするから、余計に理解に苦しむ。

「同僚」と「友人」の垣根がなくなってくると、親しき仲にもあるべき「礼儀」やいい意味での厳しさまでなくなってくる。先輩記者が書いた記事に間違いがあつたり、配慮に欠ける表現があつたりしても、後でぎくしゃくするのがいやなのか、誰も言おうとはしない。意を決して進言すると露骨にいやな顔をされたり、取り合ってもらえないこともある。勤務表のつけ方が不平等なのではないかと指摘して、「そんなことまで考えてつけているわけじゃない!」と「逆切れ」されたこともあつた。

もちろん、男性記者の中にも理解のある人はたくさんいる。女性記者独特の感性や視点を面白がつて、応援してくれる先輩も確かにいた。でもその人たちでさえも、自分のこととなると、上司や同僚と衝突するくらいなら多少のことは言わずに我慢してしまうのがほとんどだ。

いままで男社会で生きてきた人たちが、女性の理屈っぽさを、何となくうるさい、うつとおしい、と感じてしまう気持ちは分かる。異質なものを受け入れるのには、痛みが伴うだろう。でも、女性の社会進出が時代の趨勢である以上、男性にも発想の転換が必要なのではないか。特に「社会の木鐸」となるべきジャーナリストたちにこそ柔軟性を求めたいと思うのは、やはり理屈っぽすぎるだろうか。



サミットと米軍基地強化のリンクに反対！

沖縄では県民を挙げて「サミット歓迎」であるかのようにマスコミは報じているが、最近、サミットと普天間基地の県内移転・米軍基地強化をリンクさせる日米両政府の動きに反対する市民側の運動が、いよいよ活発になってきている。

7月29日、〈沖縄サミット〉を利用して基地の県内移設を強要するクリントン大統領・小渕首相に抗議する有志の会が那覇市役所で記者会見し、抗議声明を発表した。声明は、今国会で新防衛指針（新ガイドライン）関連法や駐留軍用地特措法再改正（地方分権一括法案に含まれる）が通過したことに対し「今日の日本の政治状況はまるで戦争前夜」と訴え、新ガイドラインによる軍事的協力体制の結果が「沖縄の軍事基地強化と日本全土の沖縄化を意味する」と言うまでもない」と断じている。また、クリントン米大統領がケルン・サミット終了後の6月25日に「基地問題が未解決な状態では、沖縄に行きたくない」と述べたことに対して

「このような恫喝的発言に、私たち沖縄県民は強い憤りを感じざるを得ない」と強く批判。アメリカの沖縄に対する軍事的占領は「国際法違反」であり「二十一世紀までこのような暴挙を続けるべきではない」と米軍基地の撤去を要求すると同時に、日本政府に対して「ブライドと主体性を持つて国際的にも平和リダーとしての役割を担ってほしい」と要求している。

また、〈沖縄から基地をなくし世界の平和を求める市民連絡会〉が、8月14日に那覇市内で結成総会を開き、約三百人が出席。金城睦弁護士や新崎盛暉沖縄大学教授、〈基地・軍隊を許さない行動する女たちの会〉の高里鈴代さん、〈フット運動の会〉の中村文子さんから八人の代表世話人が紹介された。連絡会は一九九七年に法律家や学者、市民団体などで組織された〈海上へり基地建設に反対する市民団体連絡協議会〉の参加団体を母体に、三十の市民、民主団体が構成。今後、普天間飛行場の県内移設先選定作業を阻止するため、政党や労組とも協力して全真的な運動を目指すとともに、来年4月17日（96年日米安保共同宣言の発表、97年改定米軍用地特別措置法成立の日）に県民総決起大

会の開催、サミット直前に普天間飛行場または嘉手納基地を「人間の鎖」で包囲する運動などに取り組む方針。

コーエン米国防長官は「サミット前に解決を」
フォークリー米大使は「ソフ」ない——米の本音は？

コーエン米国防長官は7月28日午後、防衛庁の野呂田芳成長官と会談し、米軍普天間飛行場の移設問題について「主要国首脳会議（サミット）までに解決したい」と述べ、来年7月までの問題解決に強い意欲を示した。野呂田長官は「普天間とサミットを絡めるべきではない」との考えを強調したが、コーエン長官は、小淵恵三首相、野中広務官房長官との会談でも移設問題の早期解決への期待を繰り返して強調。米側が沖縄問題の象徴である「普天間移設」の決着に数か月の期限をつけていることが明確になった。コーエン長官がサミット前までの決着を求めることを日本側に公式に伝えたことで、県への圧力が一層強まるとみられる。

その一方で、沖縄県を訪問したトーマス・フォークリー駐日米国大使は8月13日夕、宜野湾市嘉数の在沖米総

領事邸で稲嶺恵一知事ら県首脳と懇談した席で「移設とサミット開催はリンクせず、期限も切られていない」との認識を示した。知事は普天間飛行場の移設先について「複数案を絞るべく一生懸命、作業をしている」と説明。総合的な観点から移設先を選定するという方針を伝えた。

「普天間移設」県内候補地は十二か所

米軍普天間飛行場の返還・移設問題で、県の移設候補地案の概要が8月6日までに判明。候補地は（1）金武町ギンバル訓練場（2）金武町キャンプ・ハンセン西側（3）名護市のキャンプ・シュワブ・沖合埋め立て案（4）宜野座村の潟原沖（キャンプ・シュワブ内陸案含む）（5）キャンプ・シュワブ演習場（内陸案）（6）東村高江（7）本部半島（旧上本部飛行場跡）（8）伊江島飛行場（9）勝連浅海海域（浮原島周辺航空機整備構想、津堅島案含む）（10）宜野湾沖（11）下地島飛行場（12）金武湾沖埋め立て案——の十二か所。「県内移設を公約に掲げる稲嶺知事は「複数案を選定し、国に提起する」と

し、県幹部は「具体的な絞り込み作業はこれから」と述べているが、日本政府内では、知事選で掲げた本島北部への軍民共用空港建設、特に名護市のキャンプ・シュワブへの移設を第一候補とする声が強まっている。

県は3月1日に「普天間飛行場・那覇港湾施設返還問題対策室」を発足、5月には軍民共用空港として青森県の三沢基地、山口県の米海兵隊岩国基地を視察し、軍民共用空港の運用実態などを把握するなど、移設先の検討作業が本格化。この急激な動きに対して、海上へり基地を住民投票で拒否した名護の市民運動は再び結束を強め、8月13日には「へり基地反対協議会」主催で反対集会を開催、八百人が参加した。

「日の丸・君が代」法制化——沖繩では

「日の丸・君が代」を国旗、国歌とする国旗国歌法案に対して、沖縄県内では反対の動きが相次いだ。

7月29日、「日の丸・君が代」法制化、盗聴法に反対する緊急県民大会（主催・同実行委員会）が那覇市の与儀公園で開かれ、約五千人（主催者発表）が参加。

大会では沖縄選出の島袋宗康参院議員、照屋寛徳参院議員（代理）、古堅重吉衆院議員（代理）が両法案の国会審議について報告。山内徳信大会実行委員長が「政府と一部政党が戦争準備の法律制定を進めている。国旗国歌法は良心を統制し、戦争に協力する人間を育てる法律。盗聴法は人間の信条、良心に土足で上がろうという法律だ」と強調、廃案を呼び掛けた。このあと労働・民主・市民団体代表らが廃案を求め、へり基地反対協の安次富浩代表が、沖縄サミットと普天間飛行場移設を絡めた米高官の発言を批判し、県内移設反対を訴えた。最後に「軍国主義日本に歴史を逆戻りさせる諸法案を認めるわけにはいかない」とする県民アピールとスローガンを採択。大会後、参加者は与儀公園からひめゆり通り、国際通りをデモ行進した。

8月9日法案成立後、山内県民大会実行委員長は「多数決で可決され残念。法律制定で特に学校現場への強い押し付けが進み、教育の国家統制が一段と進む」とコメントした。

また、那覇軍港の浦添移設や普天間基地移設など、全県的に基地問題を考える「あらゆる基地の建設・強

化に反対するネットワーク」(妹尾活夫代表)は同日名護市内で会見、国旗・国歌法成立に対し、「多くの市民の反対の声を踏みにじる暴挙」などと抗議。メンバーの崎浜秀司さんが抗議文を読み上げた。

〈沖縄平和運動センター〉は10日昼、那覇市の県庁前広場で「国旗国歌法案の強行採決に反対する緊急集会」を開き、約百六十人の参加者が同法案の採決に抗議を表明。崎山嗣幸議長は「基本的人権を脅かす法案が次々と通過している。日の丸と君が代を先頭にアジアに侵略したことを決して忘れない。沖縄から国旗国歌法を許さない運動を展開しよう」と呼び掛けた。

「損害賠償法」の制定を

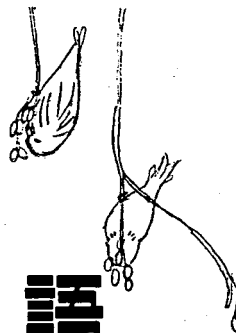
〈米軍人・軍属による事件被害者の会〉が県に要請

〈米軍人・軍属による事件被害者の会〉の海老原大祐、喜屋武靖の両代表世話人は7月26日、沖縄県庁に親川盛一県知事公室長を訪ね、米軍基地関係者による事件・事故が発生した際の被害者側への賠償や補償の責任について、第一次的に日本政府が負うとする「日

本国に駐留する合衆国軍隊の構成員等による損害賠償法」の制定に協力を求める要請を行なった。要望書では「現行法では被害に遭った人びとは日米両国の一方的で恩恵的な見舞金という形でしか補償されていない。地位協定の改正が必要だが、早急に実現するものとは思えない。日々、基地があるゆえの事件、事故が発生する中、当面は第一次的に日本が賠償、補償の責任を負うものとする国内法令の整備が必要だ」と訴え、県にも損害賠償法制定に向けて協力を求めた。

要請を受けた親川室長は「これまでの経緯をみても被害者が泣き寝入りという面が多かった。県としても地位協定の見直しも含めて粘り強く要請を続けていきたい」と応答。米兵の起こした交通事故で十九歳の息子さんを失った海老原さんは「被害者がはじめに暮らしていることをどだけの人が理解しているのだろうか。せめて国内法を整備して、より良い被害補償制度ができるよう協力してほしい」と述べた。

今年春に大阪、近く東京にも支える会が発足する。同会では法律制定を求める十万人署名運動を展開し、県選出国會議員らにも協力を求めて立法化を目指す。



語りかけたいあなたへ 23

大里知子

書見台 PART 2

本のページをめくれなくなつてから、どうしても本というものと縁を切ることが出来なくて、一週間に一度、私より少し年上で本が好きな主婦、藤田操さんに家へ来ていただき朗読をお願いするようになってから、もう三年以上になる。

始めのうちは、真面目に朗読を聞いていたのだけれど、私も近頃はだいぶいい加減になつてきて、本のことなど、すっかり忘れておしゃべりだけで、時間が過ぎてしまうということも度々ある。

読んでもらう本は、私が読みたいと思つて求めても読まないで、ためていたもの。藤田さんの、本の好みと違うと思うのだけれど、「自分では読まないものを、読むので面白い」と言つてくださるので、自分の好きなものを、勝手に選ばせてもらっている。

でも、小説などを私のすぐ近くで読んでもらっていると、ラブシーンのところなど、どこを向いていいのか、どんな顔をして聞いているか、あわててしまつて非常に困つてしまうのだ。これは、私だけではなく、朗読してくださる方も同じではないかと思うので、当然のように両方に無難な随筆などを読んでもらうことが多い。



そんなわけで、みんなに本のページをめくってもらい書見台を使って、自分で読むようになってから小説を読むことが増えた。

読みすすむ本の何冊めかに、『失楽園』（渡辺淳一著）を読んだ。

ものすごい売れゆきと聞き、ベストセラーになるような本は、いったい、どんなものなのかということに興味をわいたのだった。

『失楽園』は上下二冊に分かれていて、私は上を読んだだけで、もう下は読む気がしなくなってしまう。自分のぜんぜん知らない世界が、描かれているせいもあるかもしれないけれど、あんな本は、純文学でもなんでもない、ただのエロ本だと私は思っている。私はいつも、本を読み始めたら最後まで読まなければ、その作者が言わんとすることがわからないと思っているので、かならず、おしまいまで読むことにしているのだけれど、『失楽園』の下のはうは当分読まないことに決めた。

それから、しばらくして最近、渡哲也と吉永小百合の共演で映画化されて話題になっている『時雨の記』（中里恒子著）を、姪の明子が本と映画の両方を見たと言うので、私も刺激されて二十年前に出版されたものを、本箱から取り出して読んでみた。

『失楽園』も『時雨の記』も、ともに不倫の物語なのだけど、『時雨の記』は読んでいて、いやらしいところがなくても足りないサラッとした読後感だった。この違いは、女性作家と男性作家の違いなのかもしれないとも、考えてしまった。

昨年は、この『時雨の記』が読み納めだった。

今年もまた、藤田さんの朗読とあわせて、どんな本に出会えるか楽しみでならない。出来るだけ多くの素晴らしい本と共に、過ごしたいと思っている。

あごら読書室

新版 シマヌジュウリ 奄美の食べものと料理法

藤井つゆ著
南方新社

今、私の手もとに美しい大島紬の絵柄を表紙にした、二冊の『シマヌジュウリ（奄美の食べものと料理法）』という本が並んでいます。いのちを見つめる良書をおくりだしてきた道の島社から一九八〇年に出版され、第七回南日本出版文化賞（南日本新聞社主催）を受賞した藤井つゆさん（現在八十二歳）の『シマヌジュウリ』が、多くの方から望まれて南方新社から再出版されたのです。

この本の魅力は、何といっても藤井つゆさんという、妻であり母であるごく普通の女性の、島の味を伝えたい、子や孫に残したいという素朴な思いが伝わって

くるところにあります。電子レンジでチーンという食生活の多様化の中で、奄美の郷土料理は自然食そのもの。そこに暮らし続ける人たちの心が暖かく伝わってきて、癒されるのです。

鹿児島市の平川という海辺の小さな町で生まれた私は、貝ほりをしたり、海はおずきを鳴らして遊びました。私の身辺にいつも南の島があったのは、教師だった父の兄弟たちが、奄美、徳之島、種子島の女性と結ばれたからかもしれません。でも、本格的に奄美にひかれるきっかけになったのは、著者藤井つゆさんの息子さん夫婦との出会いから始まったと思っています。

誕生間もない長男を連れて、私はよく藤井さんのお宅を訪ねました。人生には、いくつかの大きな出会いがあるといわれますが、その頃、私はその大きな出会い

の真つ只中にいたのです。水俣、志布志、漁業、有機農業、障害者の問題、ＬＳ牛乳と低温殺菌牛乳、メラミン食器、学校給食、合成洗剤、「夏休みのお友だち問題」原発……志の高い若者の拠点のような藤井さんのお宅には、「いのち」をとりまくたくさんの情報がありました。そこは、私にとつては、人や生きものの命がどんなに大切か、そして悩み、苦しみ、喜びを分けあうことを実感し学ぶ場でもありました。

私が訪ねる日は、決まって奄美の藤井つゆさんからシマヌジュウリ（島の味）を詰め込んだ宅急便が届き、香の良いサネン葉に包んだフナムシ（よもぎもち）、ブタ味噌、魚のカラ揚げ、パイアのおつけものやジャム、スモモ等、お裾分けをいただくうちに、胃袋から奄美ファンになっていったのかもしれない。

山芋のようなコーシヤマン、スノリ（モズク）、シブリ（冬瓜）、トビ魚の一夜干し、いぎすの味噌漬け、ピーナツ味噌、油ソーメン、ヤギ汁、鶏飯……等、どれ

もこれも私の大好きな奄美の食材や料理で、よくいただいています。

なかでも、冷たい甘酒のようなミキは、美味しいばかりか夏バテ防止になるとあって、今でも三和町や朝市で調達しています。冷凍保存できるので常備できるのですが、この本を見て作ってみてはいかがでしょうか。

青い海、ニライカナイ（海の彼方）から吹いてくる風、アダン、ルリカケス、アカショウビン、島唄、八月躍り……南の島に魅せられた私は、この夏も桜ヶ丘という団地のささやかな庭で、背の丈の倍ほどあるゴムの木やハイビスカス、六月の終わりのころから白い花を咲かせるサネン（月桃の花）、パッションジュースを作る時計草の紫色にうれた実、黒アゲハ、セミしぐれに、まるで海を渡ったような自然につつまれ、多忙ゆえ失いそうな心をとりとめています。

待望の新版『シマヌジュウリ』は、百六十種類もの奄美の食べものと料理法を、

年中行事や島の暮らしを紹介しながらわかりやすく伝えていきます。奄美の女性や奄美の暮らし、食文化を知る資料としても重宝な一冊です。

笠利町の藤井つゆさんにお電話してお声を伺いました。お元氣そうで、ミキと台風とお孫さんの話に花が咲きました。

『シマヌジュウリ』のページをめくると、きよら風（清らかな風）が吹いてきます。（小川みさ子）

（B12裁 二三八ページ 四八〇〇円）

鹿児島島の女性作家

相星雅子監修

高城書房

世の中はもはや女性も男性もなく、「女流」とか「女性」とかつけると何だか野暮つたい感じがしなくもない。が、ときとして女性が束になると迫力が増し、好ましい印象になるという場合もある、と思わせるのが小説集『鹿児島島の女流作家』。

なにしろ、女性でもっている鹿児島だ。男たちは、ひたすら女性を軽蔑するふりをして弱さを隠蔽してきたが、もうここまできては女性の本来の力を認めないわけにはいかないだろう。

『鹿児島島の女性作家』は、鹿児島在住の女性たち、出水沢藍子、入来院貞子、小澤聖子、末永逸、田ノ上淑子、鳥集モエ、相星雅子の七人が、折々に同人雑誌などに発表してきた文学作品（小説）を、この度ひとつにまとめて単行本にしたもの。私は、雑誌発表の時からこれらの収録作品を読んでいるが、単行本にして、美しい装丁で、しかも女性が七人で束になると、こうも華麗になるものか、とびっくりしている。同人誌特有のきまじめと金欠病からすっかり垢抜けて、すっきりした貴婦人に成長した感じ。

そして、ひとりひとりの個性が強いので、奄美、愛人、戦争、母、ファンタジー、密航、島津の歴史、老人問題……とテーマも幅広く、読んでいて飽きない。

会話体のうまい作者もいれば、体力のある骨太な文章を書く人、繊細でこれそれうな文体がかえって魅力的な作家、本当にいろいろ、バラエティに富んでいる。

私の主宰する読書会でも大褒評判がよかった。本好きの、しかも本に関しては厳しい眼をもつ読書人たちが「おもしろい」と太鼓判を押す作品ばかり。

やはり、こころの機微をていねいに描いた作品はとくに好評だ。奇をてらわず、日常の誰もが抱える傷や弱さや悲慘を、ゆつくりと押し出すことによって、作品を強くしていく彼女らの力量に今後を期待する。

時代は、男性的な「どうだ、まいったかあ」調の、旺盛な知識を縦横無尽にちりばめて、ダイナミックに書く手法から、小さいけれど、決して人生に欠かすことのできない何かを大切にたたためて、それらをつなげることで大きな宇宙を生み出す手法へと変わってきているのではないか。そんな流れの一筋となる、かごし

まの女性作家たち。決して都会にひけはとらないし、読者もまた、ひけをとらせないくらいに育っている。

(かごしま文化研究所所長 三嶽公子)

(B6判 三八六ページ 一八〇〇円)

女ひとり地方議事に春一番

——新入り議員の涙と笑

小川みさ子著

BOC出版部

見た目、トトロのようなマンガチックな小川みさ子が、中核市の市議会議員に——。まさかそんなことはあるまいが、意地の悪い先輩議員たちの中には、たやすくひねりつぶせると思った人もいるのではないだろうか。

右も左もわからない新人議員に対して優しく教えるのではなく、厳しさが過ぎてどう見てもいじめとしか思えない議会運営委員会のやりとりのアレコレ。

ところがどっこい彼女は打たれ強い。

なんてものではなく、打たれば打たれ

るほど元氣と強さを増していく。その過程がこの本に具だくさんに詰まっている。

食・エネルギー・環境・平和・教育・

人権……等、まアーよくもこんなに勉強したものだ、とあきれるほどの情報量である。

市民運動をしている人、世の中なんとかしたいと思っている人、世の中の動きに警戒心を抱いている人たちには教科書になりうる本である。

数がものを言う世界で、ひとりでもできることがある。いや真の無所属だからこそできたことが書かれている。

それにしても、議会における当局の答弁の非現実性、議会運営における庶民感覚から大きくズレた金銭感覚などには思わず「ウツソー」と叫びたくなってくる。

この本を読んで、一人でも多くの人が諸議事に目を向け、傍聴に行つてほしいと願う。それこそが小川みさ子の望む市民参加の政治が実現していく一歩である。

(浜田正枝)
(四六判 三二〇ページ 一八〇〇円)

会になったのでしょうか。遂げやすく

なつたにしても、志のほうはしぼんだの
ではないでしょうか。しぼんだ志を、ふ
くりますか？ そんな他律的なことはでき
ないでしょう。お芝居やパフォーマンス
というのは、それ自体では楽しいかもし
れないけれど、どうなんでしょうか。こ
う疑問に思うことが、世代ギャップの証
拠かもしれません。そして、一方で自立
した女性たちが増え、他方では改善され
てきた状況に「これは楽だ」と甘んじよ
うとし始め、伝統的な依存体質から抜け
出そうとしない女性たちも多い。この
ギャップもあるのではないか。

「助け合う」ことを忘れた教条的男女
平等観の弊害もたまたま聞くところです
が、女性側の「家庭力」がなくなつてき
ており、一方、男性は、不況下で雇用環
境が厳しく「家庭力」があつたとしても
發揮しようがない、という指摘もありま
す。「家庭力」については、樋口恵子さん
が言われている家事に対応する「自事」

にも通じるところがあるように思いま
す。
(富山市 登石知子)

「男性会議」に参加しませんか？」

来年二〇〇〇年11月、三重県津市で「日
本女性会議」が開かれますが、ブレ企画
として、この8月28日(土) 29日(日)
の二日間、「男性会議」を開催します。

「プログラム」

28日(土) 13時開会

14時 全体会 講演「人間を考える」

講師 藤本義一氏(作家)

16時半〜交流会(18時半まで)

29日(日) 9時半受付開始

10時 分科会(12時半まで)

①お父さんってスゴイ！こが腕のみせ
どころ

②セクシャル・ハラスメントーなんでそ
れがあかんのや、男もキズついたらぞー

③「仕事」で疲れとらへんの？ー会社の
顔・家の顔ー

④三重の環境ウォッチングー北から南か

らー

⑤準備してますか？その日のためにー男
も女も介護の時代ー

13時半 トーク

「そうやー男も女もおんなじ人間やん
か」

15時 閉会式(15時半終了)

◆会場は三重県総合文化センター

◆連絡先は「日本女性会議2000津」

実行委員会事務局

〒514-8611津市西丸之内二三一

FAX 059・229・3366

Eメール 2000thu@city.thu.mie.jp

「教育を考える」

鹿児島では、9月を教育を考える月と
位置付けて、一連の上映会、講演、セミ
ナーを企画しています。

①映画「見えない学校」上映会
&平井雷太トーク

〈とき〉9月16日 18時から21時
20時まで上映会、その後トーク

〈ところ〉鹿児島大学教育学部

一〇一号教室

〈前売料金〉大人二〇〇円

学生八〇〇円 中高生五〇〇円

※当日は二〇〇円増し

②『見えない学校』セミナー

〈とき〉9月17日午後四〜五時間

〈場所〉未定

〈講師〉平井雷太氏

〈課題図書〉月刊『見えない学校』

6〜8月号

〈参加費〉五〇〇円

※先着二十名様に限ります。

◆お問い合わせは〈あごら〉会員の山口

祐子さんへ。

TEL/FAX 099・228・6330

〔性被害について考える〕

〈性暴力被害と医療をむすぶ会〉事務局の麻島澄江さん（ジョジョ企画）にお話をうかがい、ディスカッションをします。9月25日（土）14時から17時まで、

明治大学新研究棟第一会議室。主催は〈東

京犯罪被害者支援センター〉（連絡先は0

44・865・1851対馬さん）です。

（大田区 市川雅彦）

〔編集後記〕

◆とんでもない法案が次々と成立していく中で、『あごら』編集スタッフが国会前行動に参加して下さるのを、遠く鹿児島から感謝しています。

こうやって〈あごら〉は二十七年間ものあいだ、どこの宗派、党派もこえて行動し、情報発信を続けてこられたのだと思うたび、胸がいっぱいになります。

〈あごら鹿児島〉も地方でできることのひとつとして、福島瑞穂議員、円より子議員、中村敦夫議員へ激励FAXを送ったりしています。とにかく女たちが、少々のことは乗り越えて、ネットワークをつくり連帯していかなくては、緑の地球を次世代に残せないと胸に刻み、がんばっています。

「鹿児島市の女性作家たち」の出版を祝う会



今回も、いのちや平和に関わる女性たちに登場していただきましたが、まだまだたくさんの方たちががんばっています。今は素人編集ですが、テープ起こし、イラスト、パソコン入力等、少しずつ修業を積んでいきたいと思っています。

南からの熱い風、パワフルな女性たちの活動を伝えさせていただきますので、よろしく！

（小川みさ子）

左が小川さん、右が相星雅子さん



〈わくわく井戸端会議〉のメンバー



〈日本婦人会議〉九州ブロック会議での蓮尾悦子さん

◆八月初めに埼玉県嵐山の国立婦人教育会館で行なわれた「ジェンダー女性学研究フォーラム」で、鹿児島島の皮籠石さん、諏訪田さん、山口さんと初めてお会いし、その明るさ、パワフルさに、元気をいっぱい頂きました。鹿児島島の女はスゴイぞ！

ニッポンの民主主義は死んだ……と痛切に感じたこの夏。延長国会には、ほとほと「疲れたナァー」という感じですが、南からの熱い風に、これからの希望を見いだしました。(あ)

◆小川みさ子さんの出版記念会で、鹿児島を訪れたのは、四月のこと。会った途端、街頭行動、上映会に案内され、気がついたら座談会の席にいた。

元気でさわやかな南の国の女性たちの笑顔がなつかしい。(ま)

◆ある日、受けた小川さんの電話。「国会が近くていいね。飛んでいきたい！」——距離がどんなに近くても、「またか」の諦めだけでは、国会はドンドン「遠く」なるばかり。反省！(石)

◆250、251号と厚い号が続いたので、今回は薄めになりましたが、中身がギュッと詰まった濃い内容です。(す)

◆住んでいる町をもっと住みやすく変えていこう！と興闘しているよか。おこじよたち。日本列島のはずれ(失礼)で発生している「まじめでイキのいい風」を、中央に吹き上げてくださる！(Y)

◆嵐山のフォーラムでは、鹿児島島の方々がすばらしいワークショップを開かれたうえ、〈あごら大阪〉のワークショップでも〈あごら〉の大PRをしてくださって感激しました。腐敗しきった日本ですが、地方の感性とエネルギーが、この混乱に活路を与えるのでは、と期待しています。

フォーラムでは、私が見た範囲だけでも、秋田・石川・福岡などが、ユニークなワークショップを開いておられ、各地の女性運動の層の厚さに胸を熱くしました。

『あごら』も来月以降、大阪、京都、富山、新潟、仙台等々、地方発信が続きます。ご期待ください。(千)

〈白井博子・地の塩賞〉推薦・公募のお願い

白井博子さんが亡くなられて2年、新潟女性史クラブ、夕陽丘女性史クラブ、あごら事務局等で献身的な活動を続けられたそのお人柄は『あごら』245号『フェミニズムとは限りないやさしさ そして勁さ』にくわしく述べられています。いつも黙々と必要な時に必要なことを続けられた白井さんの業績を長く感謝するために、〈白井博子・地の塩賞〉を、同じように地道な活動をしておられる方にお贈りしたい、という声がおこりました。

女性運動はシャドー・ワークを担う人びとによって推進されていますが、いわゆる著名人が数々の賞や表彰を受けるのに対して、白井さんのような方にはなかなか光が当たりません。ご存じの方で、これこそ〈地の塩〉と思われる方を、ぜひご推薦ください。長く継続する賞にするため、賞金は多額ではありませんが、みんなで感謝し、声援を送りたいと思います。

〈白井博子・地の塩賞〉推進委員会 倉元正子、加藤裕子、斎藤千代、澤田和子、高橋ますみ、福田光子

（応募要綱）

1、次の事項をご記入の上、ハガキ・封書・FAX・Eメールでご応募下さい。

①〈地の塩賞〉に推薦する方のお名前(個人またはグループ)

②推薦人のご氏名 ③推薦理由(1000字以内)

2、締切 9月20日(消印有効) 3、発表 10月11日(予定)

4、賞金と記念品 10万円とフェミニストとして活躍しておられる方の色紙

★原則として女性・女性グループを対象とします。

★送り先は 〒160-0022 東京都新宿区新宿1-9-4-303 あごら気付

〈白井博子・地の塩賞〉推進委員会

TEL 03-3354-3941 FAX 03-3354-9014 E-mail XLV05467@niftyserve.ne.jp (斎藤)

なお、賞の趣旨に賛同し、出資する方も募集しています。出資金は 1 □1000円(何口でも可)

郵便振替口座 00100-0-5264 BOC あごら編集部

あごら 252号 自分を生きる 平和をつくる かごしまの女

●発行1999年8月10日

●編集 あごら鹿児島

●発行所 あごら MINI 編集部 〒160-0022 東京都新宿区新宿1-9-4

●TEL 03-3354-3941 ●FAX 03-3354-9014 ●E-mail XLV05467@niftyserve.ne.jp.

●定価 本体643円+税 ●振替 00100-0-5264



9784893060952



1920036006434

ISBN4-89306-095-3

C0036 ¥643E

女による女のBOC 出版部

〒160-0022 東京都新宿区新宿1-9-4

定価 本体643円＋税

この ひろい宇宙に
たった一つの地球
その 大きな地球に
たった一人のわたし
そして あなた
かけがえのない地球
かけがえのないわたし
かけがえのないあなただから
たいせつに たいせつに しよう
あなたも
わたしも
地球も

たった一度きりの人生だから
思いきり
のびやかに生きよう
だれもが だれをも
ふみしだくことなく
胸の底まで深く息をし
ああ 生きててよかったねと
ほほえみあえる地球にしよう
へあごら
人と人の出会うひろば
へあごら
人と人の共に生きるひろば

雑誌・書籍の出版
差別・平和等の講師派遣
翻訳・速記・調査その他
へあごらを支える
へBOCに
ご発注ください

創業1960年—
女性専門職集団

BOC

☎ 03-3354・3941 図 9014

E・mail XLV05467@niftyserve.ne.jp.